

講習會に於ける質疑應答

—速記—

應答者 倉橋惣三

これから所謂自由質疑を始めますが、第一に出て居りますのが名簿番號の四番の大塚さん、御説明を願ひます。

(四番、大塚喜一氏)

質問 保母が日々の保育を實行して行きます上に遵守すべき格言ともいふべきものを啓示せられたし。(五ヶ條以内)

説明 保母が日々の保育を實行して行きます上に、これだけの事を守つてゐるさへすれば向上純化して行く事が出来るといふ様な、實際の根本になります。格言とか座右の銘とか(こゝ)の用語が實に困難なのであります。がいふものを擧げて頂きたい。「子供から學べ」とか「日々感謝の心を以て生活すべし」とか云ふことは今迄教へられてゐましたが、實

際さうなれないのがお互の悩みなので御座いますから、もつと具體的にはつきりした、さう云へばさうするより他に仕方がないもの、例へば「幼稚園に早く来るべし」とか「保育日記を毎日記すべし」とか云ふ様な風の項目即ちそう云ふ風にして行けばどんな人でも自然に實行上から純化向上する様になるござういふ風なものを擧げて頂きますれば、我々の今後の實行上重要な根本的な指針を得られるであらうと思ひます。保育の眞諦は一つの實行能力であらうと思ひますので、それを我々が自ら涵養して行きます上の據りどころを求める氣持でこの問題を提出したのであります。

(應答者) 之は所謂實際問題の一つで、他の問題と違つて居るので却々難しい事でありますか……

如何で御座いませうか。皆様の中でお幼稚園に毎日お出でになりますて何か呪文の様にお唱へになります文句でもありますか。或は机の側に書いてお置きになり、其れ丈は心得こする云ふ事をお持ちになつて居る方がありませうか。

色々おありでありますうこ思ふのですが私、之を（紙を示す）よく拜見して居りませぬので、突差の事で甚だ用意のない御返事をする譯でありますか……まあ一日の事を言つたら大變ですから、朝、來た時にきつこする、こでも云ふ事でお許し願ひませうか。

私は斯ふ思ひます。朝、保母の方が幼稚園にいらつしやいましたら、鏡の前にお立ちになりましてお化粧をお直しになります事。一つゆづくりお化粧をなさる。皆様おきれいな所へ、其上お塗りになる必要はないので、汗が出て居る、髪が散らかつて居るのを調べる、幼稚園の入口の側に化粧室云ふものがありまして、其處でそれをしてから保育室、職員室に這入る云ふ様な仕組があれば申し分ないこ思ひます。

それから自分のお席にお著きになりましたならば其處で一つ何でも宜しいから——私、義太夫が好きでよく聞きます。あの文樂位の太夫の場合に、これから義太夫を始める云ふ時にお辭儀をしますが、きちんと見臺の前に座つて、大きな本を開ける前に何だか本を差上げて言ひます。

何を云つて居るのか知りませぬが、土佐等の様な太夫になつて来るこ眞實にやる。一度聞いて見ようこ思ひ乍らまだ知りませぬが——何の仕事でも、あゝ云ふ事を一つやる可きではないかこ思ふ。お席にお著きになりましたならば、キリスト教の方は耶蘇にお願になりますし佛教の方は阿彌陀様、何もない方はお茶の神様にでもする。其所で所謂、その日云ふものを慌しくなく始めて行く、之は必要な事ではないかこ思ふ。幼児の方にはそんな事はさせ度くありませんね。幼児の方はすうつこ来てすうつこ行かし度いこ思ひます。けれども先生の方はすうつこ来てすうつこ行くのでは私はいかんこ思ふ。先生の方はきちんとして頂き度い。さうする爲には自ら早く来る可きかも知れませぬ。何も馳けくらではないが、自分が慌しくなく幼稚園の一日を

始めて行く爲に、其れ丈の餘裕を持つて、來ざるを得なくなるこ思ふ。まあ心の落著きですね。

それから中へ這入つてからの暫くの間の事としては、一齊に何うこ云ふ事はありませぬが、暫くの間に、一應は自分の組の子供全體に、何の子も一人残らず一寸言葉をかけ度いこ思ひますね、皆集めてお話ししようすれば一氣に出来ますが、私の言ふのはさうではない。何處に誰が居るか分らないが、其處に行つて一人一人へ言葉を交し度い。こによる一日の中に、一度も言葉を交さざる子供が出來ないこも限りませぬ。さう云ふ子供は何時でもそんな目に遭つて居ないこも限りますまい。此方から兎に角一應、彼等の自由の遊び、生活をして居る處に行つてさうしてやるのがいゝこ思ふ。

まあ五箇條以内としてありますからこれでお許し願ひます。

(四番、大塚喜一氏) 有難う御座います。

その次の問題は九十七番。

(九十七番、埴生操氏) 私の方は地方で御座いますから

都會の様では御座いませぬで、早い子供はずつと早く来て、遅い子はずつと遅いので、其間の時間が——朝の、子供に三つ最も清々しい時間を、子供に飽かせない様にするには何うしたらいいゝか。朝、餘り早く来るこ飽きてしまつて、遅く来る子供との間の時間が長過ぎる爲に、淋しさを感じたり、怠慢が生じて来る様です。働く者も、私一人でやつて居るので手も充分にこどき兼ねますが、それを何う云ふ風にして行くかこ云ふ事をお伺ひしたい。

(應答者) 之はどちらの幼稚園にもあるこ思ひます。けれども何方がこ云へばそんなにきちんと皆が一緒にやつて來るのでないこ云ふ事に味があるこ思ひますが、事實こしては色々な意味に於て困るこ思ひます。

何方かの幼稚園で、始業時間より早く来る事に就て嚴禁して居る幼稚園がありませうか。例へば八時半とするならば、八時以前に來ても門内に入れないと云ふ様な幼稚園はおありになりませぬか。

此問題は實際問題の方から行きますが、二時間も前に來ましては保母の方がたまりませぬ。託児所ですこ斯う云ふ

事は決して言へないのであります。向ふの家庭の都合で何時來られてもいい様にして置かなければならぬ。其爲に託児所では泊り込み云ふ制度をつて居るのあります。が、普通の幼稚園の場合には、家庭に必ずしもさう云ふ必要がなくて、たゞ子供が早く來たがるとか、或は時間觀念がなくて無暗に早く來る云ふ場合があります。之に一々御相手をして居る事は容易ではないと思ふ。ですから大體に於て何とか話合ひをしまして、餘り早く來ない様に、云ふ道を取る事は必要と思ふ。何も先生の勞を省く爲ではなく、さうする事に依て、朝の時間も充分に充實しませうし、其お子さんの爲にもその方が宜らうと思ひます。然しまあ先生が普通御出勤になる頃に子供がバラ／＼來て居る云ふ程度でありますならば之は寧ろ良い保育の出來る時間かも思ひます。

あまり子供が揃ひ過ぎて、先程來申してまるりました個から始める云ふ事が出来ない云ふ事もあるのであります。が、バラ／＼に幾人か來たとすれば、或子供は先生のお手傳ひをさせてもらひし、或は先生のお机の側に置いて、

御用をし乍ら話す事もいゝでせう。所謂人間接觸云ふ意味に於ていゝと思ひます。何なら保育案なんかも割引電車の反対に、割増をお取りになつてもいゝ位と思ふのであります。

只、此問題の一一番中心であります、早く來た爲に飽きる、疲れる云ふ事は免かれないとと思ふ。此點はさうも仕様が御座いますまい。若し、何うしてもそれを防がうとするには、早く來た子供は大體の時間迄寝かして置く方法でもあつたらいかと思ひます。若し、自然にさして置いても外部の關係で非常に疲れたり云ふのであつたら仕方がない、來る方が悪いと思ふ。親によくお話になり、來ぬ様にするより他仕方がない。けれども、來たから云つて早速色々な事をするから疲れる云ふなら此方が悪いと思ふ。

(百三十八番、野々山きみ氏) 先生からのお話はよく分つて居りますけれども、土地の状況等で、一年保育、二年保育を分けて個々に受持つて居りますけれども、二年保育の子供を一人の保姆がすうつと通して受持つて、變るのと何方がいゝもので……ございませうか？

(應答者) 之は極く實際問題で、色々な事がありませう。一年保育の場合には、其間に先生がお變りになる事は例がないと思ひますが、二年保育以上であつて擔任を變へして居る幼稚園の方は手を擧げて頂き度い。(二十九人)
二年保育でも三年保育でも一人の先生が持ち上る方は……。(六十七人)

統計にはなりませぬが、すうつ續いて受持つて居る幼稚園が多い様でありますか?

(百三十八番、野々山きみ氏) 私の方は色々、

(應答者)

理由がありますか。

(百三十八番、野々山きみ氏) 一人で受持つて子供の氣

質もよく分つて宜しいが、又その先生の癖がうつる事もある

る云ふので……。

(應答者) 理由はその一つも思ひます。一年毎に變へる云ふ案は、まさか先生が其子供に厭まる云ふ事もなからうし、矢張り其先生の特有なる感化が子供に及び過ぎては何うか御案じになつて居る思ふ。

其處で、これも、斯う云ふ問題は原則的問題ではないか

ら、何方になつた所で幼稚園そのものゝ本當の意味に何うして来る云ふのではないので、其意味から何方になつても宜しいと思ひますが、斯う考へられはしますまい。

幼稚園で一番大事な事は、先生と子供の懇意云ふ事で

ある。之には何うしても、變らずにすうつ續ける方が都合がよくはないかと思ふ。小學校なんかでは……よく中學校なんかでも言ひます。「時々擔任が變つてくれない」と睨まれたら睨まれ通しだ」云ふ様に、先入主がついて偏する云ふのですが、幼稚園の方はそんな事はなからうと思ひます。表面の方から言ひまして、敢へて變へる必要もないと思ひます。

それから變へる方の論據として、同じ先生の感化が及び過ぎはしないか云ふのですが之に就て私、二つの問題を

こゝに思ひ付くのであります。一つは、其先生の感化が及び過ぎては困るから、一年位で變へて行かう云ふ結論は出されないと思ふ。其先生の感化が、及んで悪いならば、一年位なら宜らう云ふ話はないと思ひます。

それから其次の問題は、先生の感化が幼児に及ぶ云ふ

言葉、之は一寸深刻な問題ミ思ふ。之はうつかりします

ミ、皆様を失望させるミ思ひますが、そんなに感化ミは及びませぬです。感化ミは何ぞや。その先生の持つて居る人格實質が移つて行く事だミ思ひますが、其れは幼稚園時代には及ばぬミ思ひます。之が自己反省期に這入つて來ますミ

ミ 小學校の上級あたりからは可成り影響があるミ思ふ。幼稚園に於ては先生の御性質の實質よりも、先生ミ子供ミの關係の方が非常に重いのであります。ですから、先生が子供に對してやさしいミか、熱心であるミか云ふ様な事は非常な力を以て影響を及ぼしますが、先生その方の人格が實質的に及ぶミ云ふ事は、そんなに御心配なさらなくともいい……ミ云ふミおかしな言葉になりますが、遺憾乍ら及ばないミ思ひます。

そんな事も考慮して、續けた方がいゝではないかミ思ひます。御異論御座いますまいか。續けたら斯う云ふ事があつた。先生がだらしないので、子供もだらしなくなつた。先生が痼癖持なので子供も非常に痼癖持になつたミ云ふ様に、非常に悪い事が起つた例がありましたら承り度い。

(四番、大塚喜一氏) 實は丁度ここに問題ミされるる様

な事情に就きまして、或る園長先生から御相談を受けた事であります。唯今倉橋先生が御話しになりました、先生ミ子供達ミのふれ合ひに現はるゝ保母たるにふさはしい性情に於て、一人の先生ミもう一人の先生ミの間に非常な相違があります場合には、持上りにしますミ、兩方の組の子供の間に、先生ミの親しみミいふ——非常な力を以て影響を及ぼすミ今仰せになりましたその大切な點に於て、著しい相違從て不公平が生じて來ますので、こういふ場合は、時日的一年か二年かミいふ長さよりも、むしろ保育本質の方を重んじますならむしろ擔任を變へた方が本旨が徹底するのではないかミ思ふのであります。

(應答者) 私はそんな場合に思ひ至りませぬでしたが、保母——教育者ミ雖も其人格が完全無缺ミ云ふ事は要求出来ないミ思ひます。けれども子供ミの觸れ合に就ては之は、教育者である限りに於てはいつぱいの要求をすべきでは、あなた明日から完全な人格におなりなさい」ミ言つても無理な話であります。教育者ミ云ふ事は、この子供ミの觸

れ合ひ云々ころを除いては教育者の存在の意義がない

せるのがいゝか……。

のですからそれを本則としてあゝ云ふ風に考へて見たが、乍併事實上に於て今の様な事も考へられよう。例へば、此組の先生はお休みが多いから他の組の先生が行つたと同じで、缺席先生も、存在してゐながら子供も觸れ合はない先生は、従姉同志の様なもので、さう云ふ場合には仕方なく取り換へなければならぬ事がある。たゞそれを此方へやる。それを地ならし的と言ひます。

私が良い方の組の親でありますならば、さう云ふ意味で變へられるならば抗議を申込み度い。けれども今の大塚さんのお話の様な場合として、校長さんも實に苦しいやりくりとして、其位の融通性があるものと考へ度いと思ひます。

(百六十三番、中村之圭子氏) 四大節記念日を何う云ふ風に取扱ふかと云ふ事を伺ひ度い。其日が式であつても何時もやつて居る遊びの中に、其日の意味だけを與へたら宜しう御座いますか。それとも儀式は儀式として分らなくとも勅語を模寫した様なものを讀んで、嚴かな氣分を味は

(應答者) 之は屢々色々なところでお考へになつて居る問題で、所謂四大節の儀式を幼稚園に於て如何なる形で行ふべきか、と云ふ事になりませう。

教育の法令による「幼稚園は儀式を守る可」と云ふ事は書いてない。幼稚園で四大節は全然お休みになりましても、法令から言つて反則にはならない。之を何う云ふ形にすべきか。之は色々あると思ひます。例へば附屬の幼稚園でありますとか、單獨の幼稚園でありますとか云ふ事で變へりますし、例へば折角今日學校の方で御真影を掲げて勅語を校長が奉讀されて居る。難しい式が同じ仲間にあります時に、幼稚園なるが故にそれとは全然離れた事をする。幼稚園は別扱ひをしなければならぬが之も考へ方であります。或は又幼稚園が獨立である場合に、之を何う云ふ儀式に調へるかと云ふ事も問題であります。これは何うも、所謂、形に就て、きちんと一定する様な意味で定める事は只今の所では却々難しい。その四大節を、國民として祝すと云ふ事は、何んな形を取る取らないに拘らず必要であ

ります。四大節に無關係である云ふ事は保姆にもないし家庭にもない。幼稚園としても、嚴肅な氣持を持つて居るのですから、その氣持を幼児に何う云ふ風に表はして行くか云ふ事は、其各園の常識で色々お考へになりましたならばいゝのじやないか私は思つて居ります。

假に幼稚園で四大節の式を全然しませぬ事がありましても、この心に於きまして一ぱいなものがあり、さつから満される事が確實に分つて居りますれば、しない事もあり得るかも知れない。

例へば——之は、斯う云ふ問題も私個人としてお話を出 来るから試みますので、全然私の個人的な考で申上げて居るのでありますからお含み願ひますが——お正月も四大節に這入りますか。

(百六十三番、中村之圭子氏) 這入つて居ります。

(應答者) 私の考では、日本の家庭は四大節を大いに守る可きであり、守つていゝ筈だ云ふ考を持つて居ります。殊にお正月なんかは守られて居ていゝと思ふ。殘念な事に、我國の家庭が、天長節紀元節其他の事に就きまして

(私の個人論であります) 不充分である。先達も或會で、國民生活訓練の問題を定めました時に、私は、日本の家庭が、こんな愛國的な國家主義の家庭が、四大節の家庭的守り方に就てルーズである云ふ事が缺點と思つて、之れを入れて貰ひました。家庭で四大節に旗を立てゝ居る家は随分少ないのであります。又旗丈は氣が付いて夕方出して明日の朝迄置く云ふ處もありませうが、赤の御飯一つ炊くのじやなし、鰯でも何でもいゝが、お頭つきが付く譯でなし、お父さんが御神酒をあけなくともいいが、何か多少家庭がさう云ふ事に就て特別な意識を持つて呉れゝば、すつゝ此問題は樂になると思ふ。

けれども其所のこころは兎に角どんな家庭でもお正月だけはきちんとして居ります。私の幼稚園で、お正月は子供は參りませぬ。これは幼稚園の方から言つて居るのではなく、家庭の方を尊重するが故にそうして居るのであります。家庭で國民意識が充分這入つて行けばいゝと思ふ。それから、他の儀式の事に就きましては、まあ若しも全然何等のお考のない方が、特に何うしよう云ふ事をお考

へになるこしたら、餘り極端でない意味に於て、斯う云ふ

やり方があつたら何うでせうか。小學校の方で儀式がある場合には、勿論その學校の儀式に參加させる。勅語の意味が分る分らないこ云ふ事は問題ではないこ思ふ。勅語の有難さは、勅語の内容の解釋に於て國民精神を指導する事は勿論でありますけれども、陛下自らが勅語を下さつて居るこ云ふ事自身が、日本の大きな問題であります。

陛下が國民にお遣はしになつて居るものこ云ふ事に就て、嚴肅なる奉讀をいじらしく聞いて居ることは結構こ思ふ。大きい人ならばその奉讀を拜聴しまして、味ひ、深い感じも喜びもするであります。が、幼兒のはそこまで行きませぬ。故に幼兒を幼兒らしく「今日は楽しい國家のお祭である」こ思はせる事は必要こ思ふ。

まあ、何う云ふやり方が良い悪いこ云ふ事もありますまいか、参考案としてはそんなものもあるこ思ひます。

只今の「幼稚園に於ける四大節の扱ひ方」こ云ふ問題の外に、二つ問題が出て居りますが、その一つは此處に申上げる事ではないこ思ひますが、も一つのは、保育參考書こして恩物の事を書いたいゝ本があるかどうかこ云ふお尋ねで

ある。

恩物に關しての本當に委しい本は、日本語で書いた、或は釋された本は見當らないのであります。が、「人の教育」こか、あゝ云ふものゝ中に書いてあります。以上に委しく恩物の事を書いてあるのは無い様であります。が、…あなたが恩物の事を委しく書いたものを御覽になりましたでせうか。外國のものには澤山あります。何かありますかなかな：…あなたがありましたら…。

児玉さん、(神戸、頌榮幼稚園)御承知でありますか、恩物の事を委しく書いた本は…。貴の方で恩物の事を教へになりますのに、何か本をお使ひになりませぬか。(児玉コマ子氏) 出來てゐます様に存じますが…。

(應答者) 本はありませんでせうか。これは是非欲しいこ思つて居るのであります。私個人的に云へば、恩物をそもそも、幼稚園で使ふ事は必要こ思つて居りませぬけれども、然し幼稚園研究こしては、フレーベルの恩物を研究してみる事は必要であります。

それから此の御質問こ關係ないのでですが、フレーベルの研究こ云ふ問題であります。が、それに就いて丁度今朝程、

私の手元へこれが(印刷物を示されて)参りましたので、廣告の形になつて相済みませぬが、御披露します。

フレーベルの著書は、御承知の様に「人の教育」。それから「マツターウンドコーボリーダー」があります。英語では「マザープレー」、即ち母の遊びとも譯し、又、母子の遊びとも云つてゐる本です。その本が、明治初年に日本語に譯されて居ります。明治初年の幼稚園の歌には色々日本で作つたものもありますが、フレーベルの此の本から取つたものも多いので、横本の和本刷で、和語まじりで譯されてゐるものがあるのでありますけれど、それもフレーベルの歌を皆譯したのではない。何とかその完全譯を欲しいと思つて居りました處が、今日この本が出る事になりました。この原本は、御覽になりました方が澤山ありませうが、一つ一つ綺麗な繪が這入つて居つて、その繪の上に歌が這入つてゐる、それを原本通りに翻刻したのであります。原本は私がドイツで求めて参りましたフレーベルの初版から取りました。この初版は西洋に澤山残つて居りませぬ。東洋には一つしかないと思つて居ますが、それを元にして翻譯したのでありますから、所謂、原本通りのものが出来てる

る譯であります。その印刷も色々やかましく注意されまして、大變日本では出来る限り最大の技術を使つたのであります。ですからドイツに近頃賣つて居ります新しい版のよろは、ずつとこの方が原本に近い相當な印刷になつて居ります。色々歌がありますが、その歌が却々譯し難いのであります。昔のドイツ語でありますし、それから子供の歌ふ歌でありますし、餘程難しい。幸にして、我國に於いてドイツ文學に第一流の、茅野蕭々氏が丁寧に譯されて居るのであります。その原本の通りのものを拵へて、その傍へ茅野さんの譯をつけてそれが岩波から出されて居ります。それの日本刷が今日出來たのでありますて、又私の處へこれを送つて來ましたから皆さんに御披露して——皆さんこそこの本を讀んで下さる人だと思ひますから、岩波の廣告をする積りではないが——フレーベル研究の關係資料が出ました意味で御紹介しておきます。これもこの本を今日の幼稚園の所謂教科書と云ひますか、子供へ使ふ直接の本に云ふ事は、私はさうかと思ひます。けれども、フレーベル研究と云ふ意味からは、是非皆さんの御専門としてお目を通しておられる必要がありますし、私としては「人の教育」この

本こちらを…兩方讀む方がいいのですが…どちらを
より多く選ぶべきか云へば、私の考では「人の教育」より
は、今の日本の保姆さん方が讀まれるにはこつちがいゝこ
思ふ。これを子供に讀ませるのではない。正確に譯してあ
りますが、現代の歌は少し内容が違ひます。この中に盛
られて居ります子供及び子供を愛撫する心持が、それが淺
薄なものじや無くて、フレーベルの人生觀の細かい氣轉が、

子供の心持を汲んで歌つたもので、貴重な保姆の心持の本
になるがと思ふのであります。

丁度恩物の話が此處に出て居りますので御紹介申してお
きます。後で御覽下さいまし。

それから新しい問題に這入りますが、

六十七番、千葉の渡部さん。

(六十七番、渡部きよ氏) 子供達は廣くもない庭でも色
色な小さい蟲や何かを探つて參ります。殊にこれから九月
十月になりますと、凡ゆるものを取りつて參るので、毎日同じ
ものを一つの處に三つ集めて、それが別に残酷な事をす
るのではないであります、遊びの工合で殺してしまつ

たりする事を見受けたり致します。そのまゝ眺めておいて
宣しいものでありますか。もう一つは私の知らないもの
を一ぱい取つて参りまして、子供達で名前を付けてそれを
承知しきつて遊んでゐる。私が直してやり度いと思ひます
けれども、子供達で付けた名前の方が解り易いやうであり
ますけれども、さう云ふ時にどんな風な取扱ひをしたらい
いでせうか。

(應答者) 渡部さんは今おつしやらないもう一つの問題
を出されて居るのでですが、それは幼児の個性調査に關して
の問題、これは御同様難しい大事な問題であらうと思ひま
すので、今度講習にも淡路君を煩はした譯ですが…渡部
さんもあれによつて一つ考へよう云ふので、御撤回にな
りました。

もう一つの問題は今のお話になりました問題でございま
す。殊に夏から段々秋にかけて一層澤山になると思ひます
が、蟲取りであります。これに就いて問題を二つ御提出に
なつてゐる。一つは、その蟲を取つて子供が所謂残酷な事
になりがちである。これはどうであらうか云ふ問題。も

う一つは、蟲の名前について、子供が勝手な名前を付けるが、それをどう取扱ふかと云ふお詫。

その蟲の名前の方は如何でござんしようか。まあ、學語云ひまして、飛蝗ハラタカを取つて來て、飛びはね蟲と名付けたる時に、ラテン語では何と云ふ、なに云ふ必要もないのですが、ぱつたと云ふ蟲だと教へていでせう、これは如何でございませうか……。

(六十七番 渡部きよ氏) 私一寸具體的に申しますが、ぱつたとかきりぎりす等はいゝのであります、蜻蛉の少しべつた様なもの、私の方でかまきりの子もカマチヨロミ云ひますし、とかげの尻尾の變つた様なものもカマチヨロミ云ひます。それも色々なのがあります、茶色のもあれは瑠璃色に光つて居るものもあり色々變つたのがあります。

(應答者) これは蟲にもあるし、原にある事でせうが、さうでせう、その位の程度にやるものでせうか、これは蟲そのものの方から云ひますれば、正しい名前がいゝんだらうと思ひます。ですから我々の様なものでなく動物學のしつかりした見解をもつて居られる方からすれば、さ

うしても一寸言はなければ承知出来まいと思ひます。然し子供の先生と云ふ方から見るこしますれば、一々訂正しなければならぬと云ふ程でもないかと、さう云ふ考も成り立つが、如何でせう……殊に子供が或ものを妙な名前を付けてた時には、これは色々な理由によつて名前を付けるであらうが、さう云ふ様に深刻な觀察によつて名前を付けてゐるこ思ふ。そこでその問題を、私はこんなに思ふ。

子供がものゝ本當の名前を不正確に呼びますのは、大きな名前で小さいものを皆籠めてしまふ不精密さ、それと、さう云ふ意味でなく、一々の名前に就いて不正確であると云ひ得る。色々な蝶々が出て来ませう、私は蝶の名前一つも知りませぬ。もんじろ蝶と云ふのを小學校で教科書で知つてゐる位であります、多分學問的には色々な名前がある事と思ふ。蝶々と云ふ名前で皆蝶々と云つてしまふのは不精密でありますけれども、それを一々幼稚園で、あれはもんじら、あれはもん黒、あれは何色と云つた日には、あれは分らん蝶であると云ふ風になつてしまふと思ふ。さう迄委しく云はなくていいと思ふ。これは詰り、それが通

用する程度で宜しくはござんせんかな……。

もう一つは、廣い名前で、全體を含めた云ふ不精密ではなく、なんでもない名前を付けて、カマチヨロもその一つか知りませぬが、これは子供には何か大いに譯がある。恐らくカマチヨロ云は無くちや附かない感じが子供としてあると思ふ。小さくてチヨロチヨロしてゐるからカメレオンチヨロ、即ちカマチヨロ云名を付けたのでなくとも、或は先生に迄渾名を付ける子供達があります。名がよければ良い程渾名で呼ぶから、動物にも親しくなつてくる。色々な名を付けるのは、さう捨てたものじやない。その子が小學校に行き、大學に行つた時に、どうもカマチヨロが出て仕方がない云ふ事は無からうと思ひますから、唯先生はその名前に就いては正しくお呼びになる事があり、思ひます。人に本名もあるし渾名もある云つた様な事でいゝ思ひます。

それからこれは簡単な話ですが、所謂殘忍の問題。

これは道徳上の問題であり、或は刑事上の問題にもなるのであります。これは屢々出る問題で、皆さんも困つてゐる

る問題であります。殊にいこも優しき保姆の方々は、蟲の扱ひ方の亂暴な子を見るに堪えないであります。そこでこの問題は屢々出るんですが、どうでござんしよう、一寸反問しますが、若し子供が蟲を集めてきた、自ら殘忍になる、それはいかんとしたらどうでござりますか……。

(六十七番、渡部きよ氏) あなたかいかぬ云いませ

う。

(應答者) 子供が蟲を取つて歸つておゝ可愛いへと撫でゝる中蝶々の粉がこれたりする事がある。

(六十七番、渡部きよ氏) 私は殘忍云みたくないと思ふのであります。それは大人の殘忍云は違ふと思ひます。子供が蟲を持つて殺してしまつた時に、それは殘忍云みたくないでござります。子供が幼稚園に行く蟲を皆殺してしまふ云ふお話を聞きますと、私も返答に困りますが、私は子供の殘忍性云大人云は違ふやうな氣がしますが……。

(應答者) それはさうでせうね。隨分世の中には愛情まで殘忍になる云ふ事があるんでせうから、戀愛的でなくもあるね。

子供がその蟲に向つて興味の強いものが集中して来る、

恐らくあの小さいものが、大きい人間に取扱はれる時には、多分殘忍になりませう。それで大抵の事は宜しいじやござりますまい。往來を歩いて居りましても、草の綺麗な花があつて、むしり取つた。これは公徳心に關係しますが、これは確かに悪い。けれどもしかし綺麗な花が咲いて居つて、それを氣が附きもしない程、無頓著に通り過ぎるよりは何倍かいいゝと思ふ。花の方でも一番いゝのは大いに氣が附いてくれて、むしらないで一々水を持つてきてくれたりするが、一番いゝでせう。その次にいゝ事は、むしられても關心をもつてもらふ方がいいゝと思ふのですが……。蟲を取つて來る、自ら殘忍の様な事に結果はなるか知れませぬが、大抵はいゝんじや無いでせうか。取つて來て、可愛さの餘り籠へ入れておいて、うつちやらかして置いたので、朝みるご死んでしまつてゐる。これは子供の責任範圍に這入らないと思ふ。そんな事を云つたら交際も出來ない、私と交際した爲にあの人さんな事になるかご云ふならば、もう戸棚の中に這入るより仕方がない。唯ざうかするご、子

供でも殘忍そのものを興味として、蟲そのものを可愛いゝので取つて來たんじやなく、殘忍性が元になつて働いてゐて、その爲に色々なものを集めて來るご云ふ事になる場合も子供に無いことは限りますまい。殊に一度殘忍をやつてみて、人間の持つてゐる悪い性質が経験されますご、その興味で行はないことは限らない、さう云ふ事は注意する必要があるご思ふ。蟲を探しに多勢で出かけますが、何の爲に探しに行くご云つたら、害であるから虐殺の爲であるご云ふならば止めた方がいいゝと思ひます。が、可愛いゝから取つたのであれば、いゝかご思ひます。如何でございませうか、此處はさうも出來たならば是認ご云ふ考へ方がいいゝかご思ひますが、非常に人道主義の方から云つたら嫌はれるかも知れませぬけれども……。

(六十七番、渡部きよ氏) その始めはそんなに残酷な氣持ではなくて、可愛いゝと思つて取つて來て色々やつてゐる中に、何處かに潜在興味が出て来て、これから殘忍性の様なものが芽生えてゆく様な事の心配はありませぬでせう

(應答者) それもありますね、初めは可愛らしいと思つて居る中に、殘忍云ふ事が出来る機會がそれによつて與へられる事があるから、色々有害な事も起ります。如何でせうか、餘り厳密に考へなくとも大抵の處で止めていたら、如何でござんしよう。非常に綿密にしなくちやいかん云ふお説がありましたらそれも承つておかなければならぬ。

一體子供がやつて居ります事を——、さつきの渡部さんのお話もその意味かと思ひますが——大人の完成道德的の言葉で、そのまゝそこに持つてゆく事に非常に無理がある。殘忍なる行爲をしたのが悪いんじやなくて、——一寸難しくなりますが——その人の殘忍なる性格が悪いのであります。大人の場合云ふ謂も、殘忍なる行動をしたのが悪いのではなくて、殘忍なる性格が悪いのですから、子供が唯その始めに、ある行動をして蜻蛉をいたつたら、首がされた云ふのは、殘忍なる性格ではないでせう。或は抜いてみたお蔭で、あゝ可愛さうだ、云ふ感じも養はれるだらうと思ひます。色々経験をさした方がいいと思ひます。これ

は私の方が少し亂暴で、子供に悪い事をさせないでそうつさせておくやり方もありませう。私は色々事をさせてくちやくになつて、それが青年期の増殖の中で蒸し碎かれて、それで綺麗になるかならぬか云ふ事を長い目で見たいと思ふ。無邪氣な人間はこんな事をしてもいいと思ふ。概念主義からゆきまして許されませんが、もう一つ人間云ふものを質的に見て行く、どうもさうなるのではなかいと思ひます。然し私は残酷主義を云つてゐるのぢやありませんが、どうか誤解されない様に願ひます。

(四番 大塚喜一氏) 子供が自分達がつけた名で呼んでゐる時には、そういうふ名(例へばカマチヨロコイふ様な)でなければ云ひ現はせないその蟲の動作なり姿態なりの面白味が表はれてゐるなら、先生も子供と共にそう云ふ名で呼びつゝ、その中に子供が表現し観味してゐる妙味を味ひ受け入れ、學んで行くといふ態度が保姆としてふさはしいのではないかと思ひます。この「子供の世界」の獨特の姿を充分に認めておきながら、しかし保姆はやはり正しい名で呼ぶのがよいとおつしやつた先生のお考を御解説願ひたいと

思ひます

(應答者) それは斯う云ふ事でせう。子供がカマチヨロならカマチヨロと呼んで、子供としてはそれでなくてはならない感じがあつて、名前を付けた。これを訂正しないで、先生はそれをカマチヨロと呼ばないで、普通の正しい名前で呼んだらさうでせう。私が申上げた處が、もう一步進んで、子供が折角さう云ふ名前を付けたのだから、その子供が付けた名前を先生も云つてやる方が、本當に子供に先生が觸れてゆく所以ではないかと斯う仰言る。

これは確かにさう云ふ事も大事なこゝがこ思ひます。蟲の名前外に子供言葉、足をあんよ、犬をワンへーと云つてゐます。その場合に、之をさう取扱はふかと云ふ事は、これは子供の言葉の問題でありまして、その場合に子供の方の付けたのを訂正しないが、先生は子供語で話をするが、正しい言葉で話をするとかと云ふ事は前からある問題であります。子供が子供の言葉を使ふのを聞きまして非常に面白くなり、子供の氣持になつて先生も終にその言葉と一緒に使つていつた方がいいと云ふ事で子供と親んでゆく事は結構あります。

私はよく外國の人と會ひまして、この間も或るドイツ語

で話をする人と會つて、向ふの話をするのを、私何だか分らないが私もドイツ語で言はなければならぬと思つた。處が向ふは日本語がよく解る。向ふはドイツ語で話して、私は日本語で話してお互に解つたから大變よかつた。これはいつもある事で、何も向ふの言葉でなくとも返つて通ずる事があります。

一寸これは例が違ひますが、本態はさうでせう、少くもさうする事によつて、向ふの言葉を直さうとする氣持で安協出来るかもしれない。此方は直すのじやないが正しい言

葉をもつて居る。向ふの勝手な言葉もそのまゝ答めない。

斯う云つた様な處で、今の問題は言葉の使ひ方の研究です

から、子供は如何に觸れるかと云ふ問題でなく、子供がさう云ふ言葉をもつた時にどうするかと云ふ事が問題であります。此處の問題としてはこの位で妥協した方がいいかと思ひます。

(七十二番、市川智重子氏) 大人びてて同年輩の幼児

この遊びを好まず、年上の子供の遊びを眞似して、何を見ても興味の起らぬ園児の取扱ひは如何いたしたもので御座いませうか御教示を御願いいたします。

それからも一つ、毎年一人位は如何してもお口を開かぬ園児が居ります、其の扱ひ方も御教示いたゞき度うござります。

(應答者) これは兩方とも、あなたも屢々御経験になる問題かと思ひます。

一つは年齢相當な仲間友達とは遊べないで、一つ上の子のする事を真似をする子供であります。さう云ふ問題をお出しになつた方が外にもあります、この問題はその依つ

て來たる原因とも云ふべきものを選擇してみると、色々あると思ひます。

一つはその子供の元來の能カが、興味と云ふよりも元來の機能の發達が、他の子供よりも高い處にあるので、同年配のやつてゐる事では自分の生活を満すことが出来ない云ふ様な事から、さうなるものもありませう。

それからもう一つは、何て云ひませうか、大人の言葉をもつてみれば、立派な言葉になり過ぎますが——批判性格であります、その性格の中に、自分の周囲の人とすつぶつけ込んで樂に行ける性格と、解け込まないで行く性格と二つに分ける。その溶込まない性格の中に、溶けない事を思つて自ら苦しむ、溶けないと云ふ爲に一段下に自分を置いてゆくタイプと、溶けない時にはもう一つ上に出てきて、偉そうな言葉で云ひますと、高踏的と云ひますか、自分をいつも一段高い處に置き度いタイプと、こんな風に分けられるかと思ひます。その所謂、人を容易に溶け込める性格の人は批判します、又批判されるが必ずしも強いのではないが、人を溶け込めないが、何事も離れてみて

居る。離れて見てゐる時に實際やつたら自分もその位の事しか出来ないのであるし、ある人は自分よりは偉い事をしてゐるのであつても、離れて見てゐる、云ふ立場から、自分は批評家の立場に立つて批評してゆく。斯う云ふ性格の爲に、自分と同じ様なものをみますとき、いつも高踏的に見る。高踏的に自分を高く置く云ふ事は、實力の伴ふ場合は少しは秀れてもゐるが、寧ろ、所謂人を溶ける云つた様な性格の方が立派な性格の一つである。この意味から見てゆきますと、寧ろ程度の低い人が高踏的になる事が、子供の中で皆と一緒に這入つてしまつたら自分が駄目な様な氣のする兒がります。幼児に限らず大人の人でもある、人を一緒になつたら自分が馬鹿になりはしないか、自分が愚かに感じられやしないかと云ふ氣が非常にするとが、少し秀れた人ならば、この位な事がある云ふ處で、自分の値打ちに變りはないが、そこらが心配になるから人を混ざらないで一段高い處に居る。

例へば私の親戚にも時々さう云ふのがあります。電車が来る、混んでゐます。さう云ふ時に乗つた方がいいか、乗

る、彼等と一緒に様な氣がするから一臺遅らせて得意になつてゐるのであります。お祭に行く時に一緒になつたらいでせうが戀に離れる、斯う云ふ、人の中に這入つて行かないで、偉さうで實に偉くない性格云ふものは誰にもある。子供にもさう云ふ場合があると思ふ。

そこで所謂、この同年配の者と一緒にになれない云ふのは高い子供であるが、さう云ふ性格から來てゐるのである。唯、皆遊びない云ふだけならこの問題は起らないが、上の子供の真似ばかりするから、高踏的な人であるのではないかと思ふ。斯う云ふ子供は、私はさうも、秀れてゐる場合は仕方がありますぬ。同年配の者と一緒に暮せない程天才的に秀れてゐる場合には、所謂年齢によつて組を編成してゆくシステムが悪いと云ふ事になつて來ます。然しだ體は仲間同士一緒に遊べない程秀れた子供云ふものが、たんじ居るものでないとして…斯う云ふ性格云ふものは、能力の問題よりも性格の問題としていゝ事じやないかと思ふ。

そこでこれをざうしたら宜らうか。

斯う云ふ様なのは私は、少しきつ過ぎるかも知れませぬけれども、私の考では、斯う云ふ性格が一番いけないと思ふ。誰れとも一緒になれない、自分を一段高い處に置か

うこする程、偉さうな卑屈こ云つた様な意味で、卑しい性格はないと思ふ。

それで私はこれを直してやり度いと思ふ。それには恥をかかすこ云つては云ひ過ぎますが、自らの實力を實驗させまして、——そんなこを子供に云ふのではないが——「お前は妙に高踏じみてるけれども、お前の實力は、年上の者こでなければ一緒に居られぬ程偉くはない」云ふ事を色々の経験の間に實力的に實驗させてゆく。何も一度やつてすぐ結果が出るこ云ふ程、きつい事をしない方がいいと思ふが……。

斯う云ふ事に就いては幼稚園は御心配になつて居りますが、親は心配しませぬ。家の子供だけ特別偉いこに考へてゐる親が澤山ある。私なんか見方が違つてゐる。さう云ふバッくがあつたりするんですから、これは段々直してやり度いと思ふけれども、さうしても實力そのものが誰がみても同年配の者こ一緒にになれない程秀れた子供は、何とかして組を變えてゆくより仕方がありませぬ。

それから口を利かない子供、それを御經驗になりました方は失禮ですが手を上げて下さい。……

これだけ澤山あります。

おしゃべり過ぎる子供を御經驗の方は……兩々相對してゐる様であります。これにも色々な原因がありませうな。この原因を色々調べて、それに相當した治療をしてゆく必要が出て來るのでありますけれども、さの原因であらうとも、口を利き度くなり、或は利かざるを得ないこ云ふ様な關係位置に於いてやる事が、解決法ではないかと思ひます。

その口を利かざるを得ない、利き度くなる位置こ云ふものは、多分二つあります。一つはこの子が口を利かないこ云ふ事を先生の方で忘れるのも一つかと思ひます。我々が言葉を發して居ります時に——皆様はどうか知りませぬが——自分が口を利いてゐる事を意識するものはないと思ひます。さう一々、余は今、口を利いてゐる、等と意識してゐる人は無いと思ふ。心の方が動いてゐるだけで、口を利いてゐるかぎうかは忘れて居ります。何だか變な人こ向ひ合ひになつた時、手持無沙汰になつて、何か問題を作らうとして、「今日は風が吹きます、けれども日が當つて居りま

す」「その後は健康で……」何にも意味の無い様な事を次から次へ云はなければ、ばつが合はない云ふ時には、心が動かないから口を利く云ふ事を意識する。黙つてゐるゝ、側からものを云へ注意し、元來無口氣がついてゐる人は猶更ら、お前は無口だからものを云ふのだよ、云はれて行くゝ、話題は何も無い、向ふは喋べる人であつても、向ふの人云話題はないから口を利かうゝと思つて利く。心が働いてゐる時には口を利いてゐる事を意識してゐない云ふ事が云へるかと思ふ。若しさう云ふ事が云へるこすれば、この子は口を利かない子だ云ふ意識を、人が感じてゐる事を感じさせる事はよくない。遊びに来るゝ、「貴方は元來口を利かないが、少くとも三つは利きなさう」、或は逢ふ度に「さうして口を利かないの……」云ふ、こう云ふ風に餘り先生が口を利け口を利け云ふゝ、いよいよ口が利けなくなつて来る。

ですからこの子に心を働かせる様にするより外仕方がいい。隣の組の先生がこれに手傳つてあける云つて、二人掛けで口を利かせる。

心を動かすには二つの場合に限られて居りませう。一つ

は必要にせまるか、或は特に必要じやないが、創意が活潑に動いて来るかである。ですからこの子には口を利く必要に遭遇させる事が必要である。もう一つ、必要じやないが、創意が動く云ふ事は、この子に向つて無駄ですけれども話をする、さうして向ふの心を動かしてゆく、中には斯う云ふ子の前に行くゝ、黙りこくつてゐる先生があります。さうして口を利かせる事が出来るか考へてばかり居つて話をしない。さう云ふ子供が出て来るゝ非常にめいつてしまふ云ふ事になる。それを構はず話ををして、必要云ふ事に心を動かせるより外仕方がないと思ふ。これに就いていゝ御経験のありました方は一つ……私はさう云ふ事しか申せませぬが……。

如何でせう。「口を利かなかつた子供に口を利かせた私の體験」なん云ふのがありましたならば……それを仰言らなければ私の口が利けなくなつて……。大抵色々な御経験を承ります、一寸したはずみでゆく様ですが、はずみを待つて居たつて仕方がありませんが……蓄積が思ひがけない時にはずみになつて来るのじやないかと思ふ。

如何にして口を利かすべきか云ふ問題の形式としては

さう私申上げますが、これに就いては充分考慮して口を利かせる様にしてやり度いと思ひます。百パーセント大切な問題だと思ひますが、それを大切云ふ事を認識した上で、一つ付け加へ度い事は、口を利かない事がその子の爲に不幸な事であり、利かせてやる事が此方の責任に相違ありませんが、口を利かなくともその子の心は始終動かしておられますから、口を利かないから保育の出来ない子だと思決を下して、その子の沈黙の中で成長して来る心の動きを忘れてはすまぬと思ひます。黙つてゐる事だけで「貴方黙つてゐる子だから、ものが云へませぬ、仕事をやらない」云ふ様な事は云へない。その間に心が發達して来る様にしなければならぬと思ふ。云ひ換へれば口を利かせる云ふ事に餘り此方の仕事が片寄り過ぎて、その子の全體の精神の發達を妨げる事はかへつてよくないと思ひます。

(二百四十四番、宮田重太郎氏) 只今のお話の、口を利かない子供に口を利かせる云ふ事、大體から云へば、先生のお話もございました通りに、内氣な子供さうでない子供がござります。家庭生活から社會生活、團體生活に這入りました時に於て伴ふ事でございます。口を利かない

様な子でない拘らず、さうも發言をしない云ふ子供に對しては、保母の方でよくその子供の家庭を調べる、家庭をお訪ね致しまして、家庭を知ります。さうして自由遊びの時に、一寸その子の側に寄り附くなりして、何なしに先生の方から「あのお姉ちゃんは……」云ふ様な話を仕掛けます。あら先生は自分の家の事を知つて居らつしやるな、云ふ様な事から、いつの間にか話をする様になる、家庭の事をよく知つておく、「先生は、自分の生活は、かけ離れていらつしやる方ではない。優しい先生でよく家の事を知つて居られる」云ふ事から親しみが出来、一寸した事からついて参りまして、それがもとでずつと先生に親しんでゆき、口も利く様になつて来る、云ふ様な場合がある様である云ふ事を拜見しまして、口を利かない子供の家庭を調べて子供に安心させる、いつの間にか親しむ様に爲す云ふ事が、大變工合のいゝ事じやないかと思ふのであります。

(應答者) 大變いゝお話を承りまして。

(二百八十一番、山脇清子氏) これは私の幼稚園にございました事ですが、昨年一年間黙つて居りまして、三人の保

姉にかけ、又色々致してみましたけれども、何も仰云いません。幼稚園の門返来る口を利かない。それで、兎に角一應御家庭の方に伺つて、御様子を拜見するが宜からうござりまして、約二時間位居りましたが、とてもよくお話をなさいます。そして幼稚園で習つた歌を歌つて居ります。その次日様子を見る、やつぱり黙つていらつしやいます。「お唱歌で何がお好きですか」と云ふ、「日本男子を弾いてくれ」、それだけ。それからその唱歌を元にしましてやつぱつと口を利く様になりました。

(應答者) 他にも色々御経験があると思ひますが、今私は、承つて居りまして、詰りこちらの御経験も容易ならざるお骨折の結果であつて、方法そのものと云ふよりは、その方法をする迄苦勞なさいました。方法と云ふ形では見えて來ない陰でのお心違ひが非常な大きなものだらうと思ふ。

それからもう一つは今の両方のお話を承つて居りまして頭に響く事は、両方とも口を利かせる云ふ目的で計畫されて居りますけれども、子供に云つては口を利かせようとしているるな、と云ふ事は感ぜられてない様に見える。自分

の家の話をなさつて、だしぬけにいきなりそれを持つて行つて「これ何、云へるなら云つてみろ……」なんて云ふ様に演習式試験をなさつたんじゃない。

一體教育に對しては子供は非常な反感を持ちます事は充分御承知を願ひ度い。貴女方の中でも、さう云ふ様に學校に對して反感を持つた事は御體験があるでせう。教育は悪い事じやないが、教育される云ふ受動の位置に置かれる事は、「お前は知るまいが教へてやる、した事あるまいが、練習してみろ」と云ふやうなもので、之ほど反感を起すものはない。殊に口を利かない子供の中には、さう云ふ様に反感性の強い子供が居ります。殊に先生が親切がましくする程反感が起る。

その次二百四十四番。

(二百四十四番、宮田重太郎氏) 私がお願ひ致しましたのは、學校教育の初期を眺めて、學校教科目に關する児童の導きは如何なる態度でなければならぬかと云ふ事に就いて色々考へて居りますので、お教へを戴き度いと思ひましてお願ひしたのであります。

生活の誘導性の基礎を築きます幼児教育ではあります

が、この幼児は目の前に控へて居ります學校教育の直前でありますので、親に致しましても、その幼児の親は相當な階級の方であります、その親は自分の子供の心理状態なり能力の動きに對して、理解はおありの筈でありますのに、そんな方でも親に致しまして親心もございませうが、親の慾もございませうが、自分の子供に何なく文字を早く讀む事が出来るのをいゝ様に思ひましたり、數の計算とかに對して、親の方で丹念する様な方があります。従つてお互に子供を保育して居りますものは、その點に就きまして學校教育に間も無く向ひます子供の事でござりますから、相當これは考慮しなければならない事柄を考へます。如何なる程度で進みますか、吾々が保育の眞諦心得、進んでゆきますのと共に、幼児の親にも、保育は斯う云ふものでござります云ふ事を解つて戴く、云ふ事を要求するのではございませんが、さう云ふ事實問題に於て、さう云ふ場合も無いじやないと思ひます。この問題に就きまして、倉橋先生のお示し、又女高師幼稚園に於きまして、小學校との御連絡の御様子をお伺ひします。又、皆様の御意見及

び平素實際の御様子を此際に私はお教へを戴き度い。

(應答者) 小學校幼稚園の連絡云ふ名前で、色々考へられて居ります澤山の問題の中の、重要な一つだと思ひます。一つ色んな御意見を承り度いこ思ひますが、如何でござりますか……。小學校の方に御關係の方はいらっしゃいますか……。小學校の方に御出席でござりますか、小學校の方の方から、幼稚園の方に、斯う云ふ事に關した意味で何か御要求がありますでせうか。

(百五十五番、村田豊造氏) 唯今の御質問御様子を承はります、殊更ら、自分の子供を買被つてゐる様なさう云ふ上から、幼稚園の保育の精神を知らないで、自分の子供がこれほどに働きます、だから幼稚園ではそれ相當の教育をしてくれる様に、云ふ様な要求に出ます親が有る様な御様子ですけれども、さう云ふ保護者は、小學校にも澤山ございます。

又私小學校の方に關係致して居りまして、一番困るのは、幼稚園から小學校へ移つて参ります、どんな關係でござりますか、氣の利いた子供になつて参りますのがござります。さう云ふ子供は非常に學校の生活に馴れて居りま

す。幼稚園で本當に自由な保育を受けて参りますので非常に氣が利いて居ります。それは結構であるが、何から何まで知り抜いた様な態度で教室の中を飛んで歩きますので、若い女の教師などは手古ずつて居ります。始めは分り過ぎて便利の様であります。やがて一學期も経ちますと、始めて學校生活に這入りまして何が何だか分らずに、一生懸命に正直に進んで居ります子供と比べて、幼稚園から來ました氣の利き過ぎた子供は、自分の實力で受け切れない時期になります。それでも矢張知つて居る積りでふわくして居ります爲に、結局は三學期になりますと實際の成績は、幼稚園の保育を受けないで來た者よりも劣つてしまふ。その時期になりましても、自分が學校へ入りました時、羽を伸して居りました經驗から、自分自身では負ける筈はないこ考へて居ります爲に、自分の出來ない事に向つて不平を持つ、さう云ふ子供が如何か致しますと云ふことで、必要な事を見えないで、教師を困らす、大きく云ひますと云ふと不良性をおびる様になる。

さう云ふ見方から、私共先づ経験家でござりますのであります。或はそこに誤があつたのでござりますが、唯色の事を聞いて居りますが、唯今の先生のお話に非常に共鳴致したのでござります。私の處にもその保護者は宗教者と自分で稱して居ります。餘程教育の事に就いては自分で理解を持つてゐる。さうしてその子供を幼稚園へ連れて参りましたが、親達の目からみると非常に早熟な子供であつて、何も彼にも小學校の二年位は知つてゐる、と斯う信用して居ります。始めの中はさう云ふ子供だからお願ひします。云ふので参りますが、どんな關係でござりますか、私も経験が乏しいからでございますが、家に居りますと大人の進んだ様な子供でございまして非常に儀がよかつたのであります。けれども、圖畫を描きましても、車の様な玩具を揃へましても、非常に巧いと云つて連れて参りましたが、二月三月預つて居りました間に、非常に横暴な子供になつて仕舞つて、實は連れて参りました時は本當に大人の進んだ様な子供になつて、運動場でも外の子供と遊ぶ事も出來ないのらくとした子供で、私はあの子供は外の子供にも、よく注意しないと、いちめられるであらうと注意して居つたのであります。或はそこに誤があつたのでござりますが、唯

今では非常に横暴な行儀の悪い子供になりました。實際家庭に歸つても、元よりも落付かない子供になつたと親もつゞく申して居ります。私もそれに對して責任を感じまして、此頃ではちよい／＼家の行動に就いても聞いて居ります。幼稚園に参りましても注意して居りますが、さうもいふら考へましてもその原因が、なまなかに親が子供の教育について解つてしまつた積りで居られた事が、或はさう云ふ事になつたのではないかと思ふのであります。

さうも幼稚園の方には経験が極く浅うございますので、やりそこないもござりますか存じませぬが、然しそうかす

るごさう云ふ子供が小學校に這入つた時に、手古ずつてしまひ脱線致しますが、私共の町では保護者の中に斯う云ふのがござります。私の處では幼稚園の保育は一年で澤山ださ考へて居ります。それは幼稚園へやつて居るご何もかも忘れてしまふから、幼稚園の保育は小學校の一年前にお願ひして丁度いゝと思ひます、ご申します人が矢張り相當に教育の事を心得た人の中にはござります。最も私の町は千葉縣であります、幼稚園ご致しましては、キリスト教の幼稚

園が一つござります。そこには子供が三十人位収容されて居るだけでござります。その幼稚園の中の事は存じませぬが、さう云ふものもあります。どうも幼稚園の事は、私は小學校から考へました時には、さうもさつかの關係で擦れた子供に成りがちである、幼稚園を下手に通過するより却つて入れない方がましであるご云ふ様に考へる。要領を得ないかも知れませぬが、私はそんな様に唯今の處は考へます。
(第二百四十四番 宮田重太郎氏) 時間の都合もございませうが、この問題について私は平常思つて居ります事を述べさせて戴きます。

この幼稚園保育の事が、段々御教示を戴きました保育の眞諦を、お互は必ず忘れない様によく心得まして進まなければならぬのでござりますが、私共の保育致しまする誘導生活社會生活の態度を、子供に適當に與へ、社會の事柄を段々大きくなるにつれて適當に有效に受取るご云ふ態度、ご申しますご人格的態度を申しませうか、さう云ふ様に保育してゆかなければならぬのに、唯今のお話の中にございましたが、幼稚園保育を小學校の準備なる如く考へま

す時には、學齡前一ヶ年でいゝとか、或は二ヶ年以上は保育期間が多過ぎるこか云ふ、さう云ふ事が出て來るのだと思ひます。

保育はかゝるものである、保育眞諦は斯うであるこ云ふ事が確りいたします、幼稚園保育のタイプがそこに違つてくるのではないかと思ひます。決して小學校教育の準備ではなくて、生活の基礎を築くのでありますから、こ云ふ風に思ひまして、今日小學校の先生のお考こ、幼稚園の方の立場が大變に、小學校からも眞諦を理解して戴けず又幼稚園の側も困つた過渡期ではなからうかと思ひます。私も小學校に居りました時に、一年生の教育にも五六度携つた事もありますが、その頃、幼稚園からの子供に就きましても色々困りました。今幼稚園の事を始めまして、いろいろ考へさせて戴きましたが、五六年になるのであります、幼稚園に入園させた方がいゝかさうか云ふ事に就きまして、小學校の先生方が、麗々こ、幼稚園を通つた子供は始めはいゝが段々に三年生五年生に進むに従つて成績が落ちてくる、こ云ふ様に書かれてあるのをよくみます。大

私は智力能力を比較しての考が間違つてゐるこ思ひます。その子供の生活態度は如何であらうか、人格的態度は如何であらうか、そこに重きを置くべきでありまして、智力能力を判断しての保育では無からうこ思ひます。學校の教科目に關係しました事を教へるのが保育ではありません。

私は、幼稚園を經營する様になりましたから、小學校の先生によくお尋ねして斯う云ふ事を聞きます。學習態度を幼稚園で自然に授けておいてくれこ云ふ事を聞きます……。

私はさう思ひまして荒っぽい子供は荒っぽい中に内氣なものを持つてゐます。荒っぽい中にも知らずく都合よく保育される、先生につり込まれて荒っぽい子供が綺麗ないゝ観察を、或はお話を始めますこ、小學校で云へば學習態度でありませうか、さう云ふ様にざんな荒っぽい子供でも教育の眞諦を元こして、眞諦にはずれない態度に於て子供に躾をよくする、この躾につきましては大いに保育者は考へなければならぬこ思ひます。自然の中に引すり込まれる様になつて、無理でも躾が出来る様に考へます。自由にさせておく間にこんな場合はこんな氣持になつてしまふな

あ、こ云ふのではなしに、自然さうなります様に保育をしてゆくことが必要じやなからうかと考へます。さう云ふ人格的態度をよくしてやる、自然の中に仕向ける、さうして將來は社會生活がよく出來、社會の事をよく受取りまして、社會に關係して役に立つ様な人をつくり度いのであります。

小學校の方から思はれます智力能力の比較によつて判断される事がない様に、我々保育者はその眞諦をよく飲込んで、充分にその態度をこめましてその教育をやつて參りましたならば、段々に小學校からも理解をして戴けるこ思ひます。その上でその連絡をお願ひし、引張つてもらはなければ幼兒保育も都合が悪い、さう云ふ様に色々考へまして皆様の御意見をお願ひする次第でございます。

(第一百五十五番 村田豊造氏) 唯今のお話非常に有り難く存じました。先程私が申上げましたのは、勿論幼稚園から小學校へ行く者は皆さうとは考へませぬ、特殊な子供に先程申上げた様なものを見るのです。又智力能力ではございませんので、本人の性格が關係する様になつた

のでございますので、唯今宮田先生のお考を伺ひまして、私もまなまに幼稚園の方を引受けたんではない。先日來先生から伺ひました事で又非常に考へ直して居りますのでござります。實は先程申上げた様な特別な子供の居りました場合にはどう致します事が比較的一番いゝこになるか云ふ事を伺ひ致した次第でござります。

(第二百一十八番 篠田加津子氏) 私、千葉縣でございまして、千葉縣の方から御意見が出ましたので一寸申上げます。幼稚園から來た子供が小學校で段々成績がおこるこ云ふ事を度々聞きまして、そんな事はある筈がないと思つて色々考へまして、それは子供が幼稚園に來たこ云ふ増長心があるのじやないかと想ひ當りましたので、幼稚園から來ました子供は自分の氣持を何處までも出してゆき、家庭から小學校に來ました子供は、小學校こ云ふ處をちつとも知りませぬ爲に、そんな事から始終幼稚園から行つた子こ家庭から行つた子供こ違ふこ思ひます。さうして幼稚園から参りました子供は何でも自分の思ひ通りに致しますから、小學校に於て先生も丁寧に致しまして、終に益々その

子達を增長させるのではないか、そんな事もあり得ないかと思ひまして、私小學校へ子供が参ります前から、幼稚園に居たからつて決して偉いんじやない云ふ事を納得せらる様に致しますし、又小學校に参ります前に、增長する事はよくない事だ云ひ含めて、增長すれば必ず先へ行つて成績が下るに決つてゐる。自分の力を何處までも進めてゆかなければならぬ云ひ含めて小學校に送る様にして居ります。幼稚園と小學校と密接に連絡して、小學校の先生に幼稚園の事を解つて戴いて、又幼稚園の方からも度々自分の教へた子供は今さんなにしてゐるか云ふ事を尋ねに行つたらそんな事はない筈だと思ひます。

(應答者) 皆様園長さんや校長さん、それともの方からお話を伺つて、その間に静かに考へさせて戴かう云ふ、するい方法を取つたのであります。この問題は今お話の間に自ら、幼稚園と小學校の連絡問題と云ふ、間口の廣い問題になつてゐる云ふ様に解説しますが、二百四十四番としてこの問題を私は斯う云ふ様に解釋する。

學校教科目に關して幼稚園の方で、その子供が小學校に

行く事を考へてどう導くか、所謂、教科目に關しての問題でありまして餘り問題が廣くなります、問題を分けて考へなければはつきりしなくなると思ひますが、極く實際こう云ふ事に就いては明なのでありますから、小學校へ行きまして書のない様に、小學校へ行つて心得違ひの起らぬ様に、もつと進んではその子が行くであらう小學校に成る可く適應させる様に、幼稚園の方で譲歩致すのではござりますまい。家庭の親は家庭の教育方針がさうであらうに拘らず、我子の行く小學校の成績を眺めましては、それに適應させる事を、よき意味でも工夫します。そこで幼稚園では斯うだ、小學校では斯うだ云ひ合つて居りました處で仲々難しいであります。この子が今小學校へ進んでゆく云ふ事を頭の中に持つて、その子を保育して行き度い云ふのでござります。

いかにも幼稚園を小學校の準備教育の場所、小學校向き幼児を捨てる、云ふ様にお取りになるかも知れませぬ

が、私の云ふのは寧ろ反対であります。小學校へ行きまして教科目に關する限り、出來るだけ邪魔にならぬ様に云ふ考慮を取り度い。私の經驗では、所謂教科目の内容に就きまして、幼稚園が小學校で習ふものをそのまま先へやりがちなのは唱歌だ云考へます。唱歌の中には小學校の方の教科目云ふものが決つて居りまして、例へば斯う云ふ歌は何年頃教へる、所謂音樂教授法、唱歌教授法の方から色々考へられて居りますが、幼稚園の方は必ずしもさうは取扱つて居らない爲に、餘り考慮しないで、内容的意味に於て取り入れる風が今迄あつたのであります。さう云ふ關係からして、小學校に行つて三年頃に始めて出て來ますものを幼稚園でやつてゐる。それで小學校へ行きましてもう習つてゐる云ふ子供が感じたり、或は嚴密な指導を受けて居りません爲に、小學校教育法には困る云ふ事を云つてゐる。

あの「春が來た」云ふ歌は小學校で一年では教へませぬが、幼稚園ではやつて居ります。斯う云ふ様な事で、その關係は多少、唱歌では問題が内容的に起つて來る云思ひますが、外の方ではまさか、小學校らしい形で學校教科目に

相當するものを、教科目らしい形で幼稚園でやる事はならう云思ひますが、寧ろ私の申すのは消極的だから、出来るだけ小學校でやる事は幼稚園ではその形ではやらない方がよくはないか云思ひます。

例へば今度、小學校の國定教科書の第一版が色刷でよく出来ました。さうする云それが日本の小學生の數だけ用意しましたけれども、すぐに無くなりました。後で追加しなければならなかつたのであります。それの原因は小學校一年生でない子供に、家庭が買つてやつたのであります。その親の氣持は色々であります、ここによりましたならば、幼稚園へ行つて居ります子供でも、小學校の本を先きに読む云ふ事が、既にあつたのぢやないか云思ひます。これは家庭の子供であります。幼稚園では出來るだけ、讀本にあります様な事はさけまして、あゝ云ふ經驗を出来るだけ小學校で始めてぶつかる様に心掛けたり度い。幼稚園からゆきました子供が小學校へ行きます。習つて來た云ふ事から損をするであらうが、これは小學校の先生が悪いのか、幼稚園の先生が悪いのか、私には至然

分りませぬ。私には小學校も無く幼稚園もなく、只その先生があるだけでありますから、幼稚園、小學校連絡が既に概念的で、それが理論的に立ちました處で、その小學校の先生が如何やつて居られるか、幼稚園の先生がどうやつて居られるか云ふ概念的連絡を付けた處で、本當の事は徹底しない様に思ひます。さう云ふ譯ですから、消極的にこの問題を考へておき度いと思ひます。色々これについて問題が澤山出て来るこゝゝ思ひますが、先づこういふ風に御考を願つて置き度いと思ひます。

もう時間が餘りありませんので、問題に依りまして一々御説明を煩はさないで、私の方からお話申上けます。

九十六番の奈良さんから斯う云ふ性質の問題が出て居ります。實例に基いた實際問題であります。或、我儘な子供がありまして、何うも従順しくして居ない。所が其幼稚園にお客さんがあります。皆に従順しくして貰ひ度い事があつた。そこで子供に先生の方からお約束になりまして、「明日は従順しくして居ませう」と云ふお話であつたが、其我儘な子は大事な場所柄を辨へず騒いだ。するこ其側に居

りました他の子供が、その騒いだ子供を打つた。そこで打たれた子供が泣き出した。保母の方はその打つた子供の氣持がよく分つて居るのでその方は叱らないで、打たれた方の子供を諒した。斯う云ふ事件が起つた。

之に對して、何しろ友達を打つて泣かしたのでありますし、打つたと云ふ事もよくないでせうし、况んや泣かした爲に其場もゴタ／＼になりましたらうし二様の考が起つて來た。

其場では打つた方の子供を訂正するのが保母の役目ではあるまいか。所がこの保母はその反対をした。斯う云ふ時、何う云ふものだらうかと云ふ。

之は奈良さん御自身直接御關係の問題でなく、たゞさう云ふ事をお聞きになつてお考へになつて居る所から出た問題であります。よく幼稚園にある事だと思ふ。此問題の、保育問題としての本當の中心的意味と云ふものは、この打つた方の子供の心持と云ふものが、何う云ふ風に解釋せられる可きかと云ふ事にある。此問題の御提出の大體の調子で言ひますと、打つた方の子供をよく解釋して居る。

其子の氣持が良く分つたから其子は吐らない云ふのであります。

よく解釋して此子は所謂幼兒期に可成り純真に起つて來る正義心云ひますか、正義……即ち正しい事を何所迄も正しくやつて行く云ふ様な意味から、此子が斯う云ふ事をやつたのであります。あの幼稚園の子供に、相當に正義の感情が強い云ふ事は認められると思ふ。そうしてその強い正義の感情は何方か云へば、育てゝ行く事が出来ると思ふ。

然し悪い解釋からしますならば、相當に人間にあるおせつかい性、お世話焼云ひますか……自分の問題を自ら處理する云ふよりも、寧ろ他の人の方が餘計氣にかかるおせつかいがあります。之は形から言へば、惡を惡として人の事迄するから良い事に相違ないが、突込んで見れば、本當の感情よりも、人の事を世話焼く事を興味としてやつて居る云すれば相當おせつかいである。ですから此子が本當に正義の感止むなくしてやつたのか、一體此子はおせつかいなのであるか——よく幼稚園の子供を集めて居る云ふ事は一つもしないで、他人の世話を焼いて居る自發的

警視總監云ふものがある——さう云ふ事なのか。

之は何うでも解釋出来ると思ふ。この處置が良い悪い云ふ事よりも、さう云ふ解釋が出来る云ふ事において置きませぬ、それを良い悪い云ふ事を決定する事は難しい。其所でその正義心云ふよく解釋した場合云、おせつかいのちよこまかしの望ましくない方云、二つに分けますが、實際に於て吾々の取るべき態度はその正義の方から起つた云しましても、人の事は餘り多く侵さない云つた様な事も大事な事であつて、それで鹽梅されて行くのが大人の場合ならば適當な處置と思ふ。けれども子供ですからそんな理想的な事は言へませぬが、大人であるならば人の事は出来る丈餘計な事をしない方が作法である。況んや斯う云ふ場所で、其子が騒いだから云つて他の子供が「あの子が騒いで困る」云ふ事ぢや居るでせうけれども、敢て自ら出しや張つて行かない子供もある云ふ事。この感情が少し此子に缺けて居る云ふ事ならば、そこは實際問題云つてせい／＼矯正して行く必要があるのであります。この保姆さんが後で園長さんから叱られて居る様であります。園長さんも何う云ふ譯で叱つたか私にもよく分りませ

ぬが、必ずしもこの子供のした事がいゝとも云へないと思ふ。正義の氣持は動いて居る。殊に先生から云へば静かにして貴ひ度いところへ、此子が先生の意志を體してやつたのだからいゝが、それ許りで簡単に取扱へない點もあるかと思ふのです。斯う云ふ子供の、その心持も多少認めるけれども、少し抑へて置きませぬ段々その傾向が強くなつて、自分の事はしないで他人の事におせつかいをして、自分云ふものと他人云ふものの領域を越して来る様な傾向がついて来るに反つてよくないと思ふ。

私、さんく話して来ますが、お氣付きの事がありまし
たら仰言つて下さい。

(發言者なし)

十九番の問題は男の子の事であります、家に居る時に大變に強い子であるが、幼稚園に来るに皆と一緒に遊ぶ勇氣もなく、意氣地なしで恐る々暮して居る。之を何う云ふ風にしたら宜らうかと云ふお話。

これもよくある事であります。この問題に對して斯う云ふ事が考へられるに思ふ。家では大層強いのに、幼稚園では

從順しく意氣地なしで小さくなつて居る。斯う云ふ言葉を使つた場合には、其子供の、家と幼稚園との性格の違の表面を表した言葉であります。家では強いのに外では弱い。外では強いのに家では弱い。然し其れは事實の表面を表はしたのであります。若し心理的にでも言ひませうか。もう少し内面に這入つて此事實を言ひましたならば、家では強いのに、ではなく、家で強いから幼稚園で弱いと云ふ場合が寧ろ多いのではないかと思ふ。言ひ換へますならば、家で親達が其子供に或はやさしくして居る、又御機嫌を取つて居る。そこで家で自分をいつぱいに出す事の出来ら様な弱い條件の中に居るから、幼稚園に来て、對等の友達の中に這入るに自分が一ぱいに出す事が出来ない」と云ふ解釋もつくと思ふ。

よく親が「家では此子は大變に元氣で御座いますが、幼稚園では何故でせうか」と云ひます。さうして幼稚園で意氣地なしであるのを辯解すべく、「家では威張つて居りますので此子の強いところは家で現はれて居ります」と云ふ。斯う云ふ親があるが、教育的心理的に考へますならば、家で威張つて居るから外で意氣地なしと言へるかと思ひます。

隨て斯う云ふ様な子供に取りましては二つの處置法が考へられると思ふ。一つは、勿論幼稚園に於て何とかして、先生が始終大きい強い方の子供の仲間へ此子を引張つて来て、段々に、さう恐る可きものでない云ふ様な、自ら自分の強さを感じさせる様に色々實際の場合に指導して行く。之は皆さんもなさつて居る事と思ふ。それからもう一つは、幼稚園ではなく、只今申上げた様な意味でありますから、家庭の方から直してかゝらなければ出來難い事と思ふ。家庭の方で若し御機嫌を取つて居るやさしいお祖母さんが居る事が、言ひなり放題にして居る云ふ様な、家庭内に於ける子供の生活の空氣が樂過ぎる様な空氣でありましたならば、何うしたつて幼稚園に來れば幼稚園の空氣は少し感するに相違ないのであります。幼稚園の空氣の強さが、吾々子供に與へる訓練の一つでありますから、家庭の方に立入つて相談して見る必要があると思ふ。家庭教育に對して、幼稚園から色々の事を要求したいのであります、幼稚園で繪を書かして居りますから家庭でも繪を書かして下さい、幼稚園では歌を歌はして居るから家庭で

も少し歌はして下さい、斯う云ふ様に幼稚園でやつて居る事を家庭に於て手傳つて呉れろ云ふ様な注文は、餘り適當な注文ではないと思ふ。小學校の場合に、小學校の時間では足りないから、家庭で復習を充分して下さい云ふ注文をするが、小學校の場合は問題でないしまして、さう云ふ意味で、幼稚園云ふものを、その正面から家庭で手傳つて呉れる様に云ふ注文はしたくないと思ふ。

乍併、斯う云ふ風にして居ては、幼稚園にいらつしやる

普通のお子さんが耐へ得る事が、耐へられない様な事がありませう」云ふて、若し、その家庭が、あまりやさしい軟い軟柔なる空氣でもつて子供に當つて居るのでありますならば、それを直さむ事を勧める、幼稚園で其所のここは却々難いと思ふのであります。

但し只今申上げたのは純教育的に考へたので、此子の精神心理的な意味で、神經質である事が、此子のぎつかに、意志の上に缺陷がある事が云ふ様な精神心理的な弱點が原因になつて居るならばそれを直すより仕方がない云ふ事に

なりませう。

それから十七番は「幼稚園へ来る前に何かしら金を使はない」と承知出来ない子供」。

之はまあ、何う云ふのですが。多分家の極く近所に駄菓子屋があると思ふのであります。却々、幼稚園に来る前に時間もないと思ひますが、金が使ひいゝ様な環境にあると思ひます。

丁度之と同じ様な問題がもう一つ出て居りますので、つまり、子供の所謂浪費性と云ふ様なものに就て親が心配して、幼稚園で何うかしてくれろと云ふ問題と思ふ。

私は、之はさうも家庭教育の領域の問題であつて、幼稚園單獨では何うする云ふ事は却々難しい事と思ひます。

金遣ひと云つた様な事はよくない事だとか、さう云ふ事はしない様に云ふ事を話す程度の事は出来ませうが、實際金を使ひたがる刺戟が側にあつて、其れに打つつかつて行く練習と云ふものは、幼稚園の所謂修身と云ふものでは出来ませぬから、斯う云ふ事はまあ家庭の問題と思ふのであります。

それからもう一つ同じ十七番の方が出しておいでになる

問題で「夜遅く寝るので朝自然に目が覺め難い。それで幼稚園へ来るのが嫌嫌であるけれども無理に連れて来る」と云ふお話。

之は困りますが、此處に書いてありますところでは、其家がカフェーださうでありますから……私でもカフェーの家に居たら十一時位迄寝られないと思ひますから之も幼稚園で何うする事も出来ませぬ。幼稚園として、さう此問題を御心配にならなくともいいと思ふ。

それから十八番の方から出て居ります問題に——矢張り金遣ひの問題がありますが、之は先程のとと同じでありますて改めてこゝに申し上げることも要るまいと思ひます。

もう一つの問題は、「七歳の男の子が自分では悪い事をしないが他の子供に勧めっては悪い事をさせる」。

之は屢々ある例かと思ひます。自分でいたづらはしないが、誰かを使って悪い事をさせる。それから、其子は、友達が先生に賞められたり何かする側へ行つて其子をいじめる。自分に無關係であるけれどもその賞められた子供をいじめる。先生が其子供に近付いて行かうとする逃げ

て行つて近付かない。その三つは面白い此子の性格を表す條件が揃つて居るこ思ふ。之は何うかした一つの事實がここにあつたのである。

つまり、此子は卑怯な子供なのでありますて、——所謂卑怯云ふ言葉が當るだらうこ思ふ。自分で悪い事をするには相當に勇氣が要ります。それを自分はしないで唆かしてやつたならば、罰が自分には來ない。そこで消極的に自分云ふものを守つて居る。友達が賞められた時にそれを嫉妬する云ひますか……其處へ行つて後からいぢめる、云ふのは、自分が如何に賞められ度いか云ふ事を表はして居る事實であります。先生に近付いて行く云ひました——先生に近付かれる云ふ事は、自分云ふものを真正面から取扱はれて行く事であります——この正面から取扱はれて行く事を避けて居る事である。斯う云ふ卑怯な心理云ふものは勿論倫理修身云ふ方から言はば悪い事でありますて、此子の將來迄斯う云ふ風な卑屈な卑怯な氣持が續く云ふ事は、大いに憂慮すべき事云思ふ。然し斯う云ふ卑怯な氣持云ふものは、性格の上から

の問題になるのであります。所謂弱者の心理——此子の特有なる性格として考へれば非常に此子の爲に心配すべき事であります。一體斯う云ふ風な心理云ふものは弱者共通の心理でありますて、丁度幼稚園位の年齢の子供は——私は何時でも斯う云ふ事を思つて居るのであります。

——幼稚園位の子供が若し自分の色々な感情なり意志なり考なりが起つて来る。その性格と自分の生活とが適當のバランスが取れて居れば其子供は極く中庸を得た子供になる。自分の感情なり、意志なりの強さと、自分の意識する強さがバランスが取れて居れば強い。若し感情意志智力の働きがずつと強く、自分の意識する云ふ事がそれよりも弱い力で働いて居る場合に於ては、相當に強く此子は生活をして行くのであります。之に反して自分の感情意志智力云ふものよりも、意識の方が働いて居るこしますれば卑怯な子供になつて來るのであります。所謂弱者になつて來るのであります。個人性格として斯う云ふ子供は實に困つた子供であります。

そこで、此子供は本來遺傳的に斯う云ふ性格を持つて居

る云ふならばそれだけであるが、さうではなくて、自己

ないかと思ふのであります。

意識云ふものが實力以上に動いて居る、それが強過ぎるのだと斯う云ふ原因で若しあるならば、この子供の斯う云ふ傾向を直すには、其處に觸れて行かなければならぬ。

即ち自己意識の強く起らぬ様に指導して行く云ふのが方法になつて来るゝ思ふのであります。この事を私、申しますのは、今私も申しましたし、皆さんも同様にお心附きこ思ひますが、此子は卑怯な嫌な子である。憎む可き云ふよりも憐な子供であります。つまり逃げてく／＼居るのをやります。逃げるゝは消極的に自己を守つて居るやり方であります。そこで嫌な所が出て來るのであります。所

が此子供に向つてよく、子供の性格を直すべく「あなたは何故さう云ふ卑怯な事をするか。何故さう云ふ嫌な性質を持つて居るか」云ふ。斯う云ふ風にして之を直して行かうこします。反つて益々此子供は自分を意識する傾向が強くなつて來る。斯う云ふ子供の性質が、自己意識の強さから起つて居るゝしたならば、自己意識を強く起さない様にさせるのが解決の秘訣である。之が取扱ひ方の根本では

どうも人間が性格に向つて訓練を與へ、之を訂正して行く傾向の強いものであります。青年なんかの場合には自ら反省する事に依て自ら正して行くからいゝでせうけれども、幼稚園の場合に於てはバランスに依て、色々の問題が起る事を解決して行きますから、出来る丈自己意識の起らない様にして行くのではないいかと思ふ。

次は六十九番の「談話に對する保育上よりの考察及び其適切なる取扱方法」之は？

(六十九番)

談話をざんなんに保育上から廣い意味の先生の話に迄及ぼして何う取扱つたらいゝでせうか。

(應答者) さうするゝ貴女の問題の御主旨は子供同志のお話合ひですね。

(六十九番、林計恵氏) 狹い意味の談話を、幼児の社會生活に迄及ぼして行く時に、子供と先生の話合ひ、子供同志の話云ふ事に何んな風に押し廣めて取扱つたらいゝで

せうか。

(應答者) 狹い方の意味を言ひますと、所謂兒童文學を

してのお伽噺、童謡童話と云つた様なものを、保育上どう取扱ふかと云ふ事は、之はあまり問題が廣くなると思ひますが、今の話合ひの様な問題、つまり子供と子供、先生と子供の日常の話を、保育へ何う取扱つて行く……何う取扱はなくともそれで結構ではあります、が大分之は意志がありさうに思ひます。何う云ふのでせうか？先生と子供とは話をする事その事に大きな價値があるから……まあ好な子供ばかり話しないで萬べんなく話をすると云ふ様な事は必要な心がけかも知れませぬ。

(六十九番、林計恵氏) その點幼兒の生活を社會生活まで引入れます時に何んな心構へで談話と云ふものに對したら宜しいでせうか。

(應答者) つまり先生と子供及び子供と子供の話の社會作法の様な訓練を何うするか……。

(六十九番、林計恵氏) 作法ではなく、一般子供の社會生活に子供を入れる第一歩として、實社會の社會教育に幼

兒を導く心持——何んな心構へで子供同志の話を聞いたらいゝか……。

(應答者) 段々分つて參りましたか……自分の思ふ事をはつきり人に言ふと云ふ事はまあ、社會生活に這入る大事な點ですね。ですからはつきり分らせる様に、分る様に云はせる様に指導してやる。その反対に人の話をよくきく云ふ事が、社會生活の大事な事ですから、小さい子供に人の話を聽く態度を養ふと云ふ事は社會生活の必要な指導かも知れませぬ。その聽く態度の練習は必要と思ふ。

子供の社交訓練の問題を、話の方に持つて來ました時に、外國では大變に人と話をする事の作法上の意味に、重きを置くものですから、そこで外國の幼稚園では頻りに斯う云ふ事を云ふのであります。例へば他人の話が終らない中に口を出してはいかぬ、と云ふ事なんかあります。よく、先生と子供が話をして居る時、他の子供が「ウーッ」と云つたりする。一寸した此方の話の受け方で、向ふの話の出口を抑へて、おつ被せる様に話して行くと云ふ事はよくある。さう云ふ人が大人でもよくあります。大人で二人話

して居りまして「さうですか」と向ふの云へるだけ云はせる様に返事をして行く人ミ、何か言ふミ、終ひまで言はせないで此方から被せて丁トふ人ミある。その人の、話を終ひまで聽かないで此方から口を出すミ云ふ様な事はいけない。斯う云ふ事は子供にさせない。だから、先生がお話をしても

居る間、第三者が口を出すミ云ふ事は非常に八釜しく禁ずる國がある。之は我國なんかでは： 我國は一體心持の方を主にして居りますので形の方をあまり主にしない傾向があるけれども、形を主にした方から言へば斯う云ふ事は大事な事かと思ふ。

それから、向ふの人が言ひました話を正しく聞いて、それを其處に一度表はさなければならぬ。之も形の上です。之には二つの事が必要でせう。一つは、その話に相當する返事を一應しなければならぬ。計ひ換れば返事の仕方、返事をするに下手な人があります。もう一寸氣の利いた返事をしたらいゝと思ふのに、まんかんな返事をする。それからもう一つは、返事はしてもしなくとも、第二の場合ミしてはその話全く無関係な話をボツミ持ち出す。之を

外國では子供の家庭教育の作法に大變八釜して言つて居る様であります。向ふが「今日で講習もおしまひで御座いますね」ミ話して來た時に「暑い事で御座います」ミ言ふ様な言葉ですね。どうも向ふの話を聞いて居たのか聞いて居ないのか分らない。

つまり向ふの話ミ無關係な話をする。兩方が無關係な話をする人許りミ話しては面白い場面が連續する。成可く向ふの云つた事ミ無關係な返事のしつくら、ミ云う様な遊びが出来る。殊に女學生なんかは、「それはそうだけれども私は斯う云ふ事に興味を持つ」ミ全く相手ミ連絡なしに行く。之も仲の良い同志では「あなたの云ふ事は返事をしないでもちやんミ聞いて居るわよ。けれども私は私」ミ云ふ様に心が通つて居るからいゝけれども……。

でせうか。

社會生活の方に話を持つて行くミ云ふのはさう云ふ意味

(六十九番、林計惠氏) 左様で御座います。

(應答者) 次は三百六十六番の問題。

男の子で、所謂幼稚園に馴れない。一緒に附添つて来ま

す小僧さんにはかりくついて居て、先生につかない子供がある。無理に附添ひから離さうとする、怒つたりあはれたり色々なものを投げたり亂暴を働く。

之も、這入りたての子供はみんなそんな風で、恐らく此子供は少しそれが激しいのであります、が、何うで御座いませう。打つちやつてお置きになりましたら……。別に、離さう離さう云ふ方に努力するよりも、段々何時の間にか、片方が面白くなれば附添ひから離れますから、幼稚園生活を子供の周圍に充實させて行くより他、仕方がないと思ふ。次は三百三十七番。實例が舉つて居る。要するにぐずくして居る子供の取扱ひ方を思ふのであります……。

(三百三十七番 留岡よし子氏) それも御座いますが、子供をどうして……(聞き取れず)

(應答者) 先生の方から云へば、或る處に集つて來て呉れて、此仕事、其保育へ這入つて貢つて行く必要がある時に、却々集つて來ない。さう云ふ子供を何う云ふ風にして集めたら宜らうかと云ふお話。

三百三十七番の御實行の一つとして、集團生活の形を

借りて來て、例へば汽車が出る、その汽車へはちゃんと集まつて一緒に乗らなければならぬものであると云ふ、集團生活の方から、段々、自分勝手に集まらないと云ふ子供を矯正して行く、と云ふ御意見が出て居るのであります。

之も色々な場合があると思いますが、時によりますれば集つて來ないので、なかなかその子供として理由がある事があるかも知れませぬ。此方では集め度いから困るけれども、其方の方には理由があるかも知れない。たゞ問題になるのは、所謂、人から云はれると云ふと、直ぐ其れに素直に反応して行く事が出來なくなつて来る慢性的の癖がつく場合がある。別に大した理由はないが、何だかお出でと云はれるところ、直ぐ這入つて行く事自身が自分に面白くない。其人は根性が横に回轉して居るのである、さう云ふ、一捻り捻つて見なければ承知が出來ないのは困るのであります。直さなければならぬと思ひますが、御質問に對して、私、妙な事を申上げておしまひにして置き度いと思ふのであります。斯う云ふ場合に先生の方も、集め度いと云ふ御都合を事主にしていらっしゃるのではないかと思ふ。勿論集めるの

ですから理由があるけれども、先生が呼ぶのに來ない、斯う云ふ氣分があまり強く働いて居ります。リアクティブに逆らつて見る様な興味を起さぬことも限らない。或子供が「來い／＼」と云ふこ來ない。大人でもさう云ふ事はあるので、甚の好きな人が歸らうと思つて居るところへ使が行くこと。歸らない事がある。先生の方でジリ／＼して、此方の氣持だけでやる云ふこ來ないかも知れませぬ。こくによつたら、此方の呼ばう云ふ氣を抑へて「あなたの面白いね」と向ふの氣持になつてやれば、「先生の方も呼んで居るんだらう」と云ふ工合で素直に來るかも知れない。子供だつて此方の出方である。

甚だ失禮な答へ方ですけれども……。

(三百三十七番、留岡よし子氏) 幼稚園から來る子供は我儘で困る云ふ。それで團體生活を教へる事は良い事か悪い事かと云ふそんな事も……。

(應答者) 之はよく云はれる事で、今日の小學校の上級

或はそれ以上の學校すべてきちんときちんとした、半ば兵營の様な軍隊の様な集團訓練をして居るから、其れを幼稚園

時代から何う云ふ風にやつて行くかと云ふ事は、たしかに問題であります。然し之は、つまり集團生活の訓練をしたいと云ふのは目的なのであります。その目的に直接に人々の子供を持つて行く事が必ずしも方法ではないのですから、ピリック吹いたら皆集まる云ふ様な青年團か何かの様にやつて居れば段々には集まると思ふ。小學校では鐘が鳴れば直ぐ集まる、云ふ様に簡単には行かないかも知れない。一體私は、幼稚園時代は餘り集團的時代ではないと思つて居ります。寧ろ集團と云ふ様な事の爲に、自然なのを捨くれない様にしさへすれば其位の程度で宜しいと思ふ。次は六十五番。幼兒の階級性と云ふものを實際保育上何んな風に考へて取扱つたら宜しう御座いますか、と云ふ問題。階級性と云ふ字が出て來ましたから大變現代性を帶びた問題になつて來るのであります。

(六十五番、須子啓子氏) 階級性と云ふのは別に難しい意味でなしに幼児の社會的な生活……。

(應答者) 之は非常に大事な問題と考へて居るのであります。所謂階級と云ふ言葉が當るか何うか知りませぬが：

：世の中に階級ミ云ふものがあるか何うか知りませぬが、
俗語ミして使つて置きまして、子供に階級觀念を持たせる
事の問題。

この問題を順序に追つて行きますミ第一に、子供に階級
觀念を持たせる必要ありや、私は無しミ考へます。世の中
には階級差別がある、ミ此方で言つて、さう云ふ考を持た
せる必要はない。さう云ふ事を持たせる必要があるミ考へ
た——例へば侍の家庭なんかでは、始終さう云ふ事を言つ
て所謂階級意識による自己尊重なミ云ふ事を、昔の教育
では非常に採つたものであります、今日は私はその必要
なしこ思ひます。出来る丈、幼児には所謂階級ミ云ふ様な
感じを起させない様にした方がいいミ思ふ。

階級觀念ミ云ふものは、上の階級を尊ぶミ云ふ事ミ、下
の階級を馬鹿にするミ云ふ事ミ二つある。假に世の中に階
級的差別があるを免かれないとしましても、馬鹿にさへし
なければ宜しいのであります。つまり今日言ふ階級觀念ミ
ミ云ふだけの話。さうして、金持の方は金を澤山持つて居
るし貧乏人の方は少ししか金を持つて居ない。金持の方が
いゝ着物を着て居るし貧乏人は粗末な着物を着て居る。金
持の方が立派な家に居る。貧乏人は小さい家に住んで居
る。まあさう云ふものだミと思つてしまへばいゝ、だから此
方の人は偉い人で此方の人は卑しむ可ミ云ふ様な、階
級ミ云ふ事を基礎ミして、その人を尊敬したり輕んじたり
する感じは、現代に於て幼児に持たせる必要がない、ミ云
ふ事から進んで持たせたくないミ云ふ方に、寧ろ行き度い
こ思ふのであります。

あまり此問題を突込んで行きますミ、丁度只今新聞に色々
々出て居ります事件の時節柄でもありますから、穩當でな
いかミ思ひますが、私は、階級ミ云ふものは世の中にある
ミして今日の社會の關係がら言ひますれば、例へば階級的
に上の人を尊敬するミ云ふ様な事情も今日の社會では色々
あるミ思ふ。

適當であるか何うか知らないが、小作人をして、地主に對
する或敬意を持たせるミ云ふ様な事は今日に於て——人世

哲學の根本は別として——必要な事もあらうかと思つて見ます。そこで小作人の子供に、地主を馬鹿にしたりしない様な教育をする事も必要としておいて、その必要もないことを云ふならば、反抗させる教育を幼稚園でする——反抗幼稚園と言ひますならば論はないが、矢張り社會秩序を今の儘で考へて行くとして、その目的を持てば持つ程、私は幼稚園時代に於て、理解なくたゞ階級的觀念を持たせない方が却つていゝと、方法論として申上げます。之はお分り願ひ度いと思ふ。所謂根本論として申して居るのではない。今日、幼稚園なり小學校邊りで、先生の考へ方の不用意なる爲に、或は繪本なりお話に出て來ます不用意な言葉遣ひの爲に、小さい子供の頭の中に不平不満が養はれて居る事が相當ある事は氣を付け度いと思ふ。

その不平不満を云ふものがありまして、段々成長して来てひよつと何かに打つかつた時に、寧ろ反対の結果に出る。小さい時から尊敬する様に育てて行かうと思つて居たが爲に、或事に刺戟を受けると、反つて反逆的な感じが起つて来る云ふ事もあるじやないかと思ふ。其意味からし

て私は、幼稚園の場合に於きましては、出來る丈階級的な差別、况んや上の階級を尊び下の階級を卑しむる云ふ事は寧ろ積極的に避け度いと思ふ。

(三百十八番、沼波穂氏) 只今のお話、よく分りましたけれども、幼兒同士の間で、先きに立つ子を従はされて行く子がある。さうしてそれを小さい乍らも表はれて居る子供がある。自然、階級を云ふ事ははつきり分りませぬけれども、幼兒同士で階級をつける様な場合があると思ひます。それを、私共はさう云ふ階級を云ふ様なものは成可くつけたくないと思ひますけれども便宜上、黙つて見て居る事もある。さう云ふ場合は幼兒同士の階級に對する態度は何うしたらいいか。お尋ねいたします。

(應答者) 今のお話は實際に即した尤もな問題です。さて私の申したのは、所謂社會的意味に於ける階級性、六十五番はさう云ふ意味ですね。既成階級。

今あなたのお話は、子供の中に實力から生じて來る問題、之は同じ階級を云ふ字を使ひ得ると思ひますが普通は所謂階級を云ふより、リーダーになつて行きますもので、リ

ードされて行くものゝある。幼稚園も一つの社會である以上、階級が出來て來る事はある事ゝ思ふ。それに就て一寸。私は世の中に所謂既成階級が出來て來たのは當然ゝ思つて居ります。世の中に、金を持つて居る人ゝ居ない人がありました時に、金持は皆泥棒で、貧乏人は皆落つゝこした人ゝ云ふならば知りませぬけれども、之も何か實力があつてさうなつて來るのでですから、社會に實力が基になつて色々な階級が出來る。之を私は、こゝで申上げなくともいいが念の爲申上げます。

私、社會に於ける階級ゝ云ふ事に對して絶対に排斥して居る論者ではないのであります。出來た階級が社會内に於て、何う云ふ風に昔が附いて來るかゝ云ふ事は別問題でありますけれども、それはまあ此處で言はなくてもいゝ。只私の願ひ度い事は、先きの例のお話でありまして、世の中に地主小作人ゝ云ふ色々な階級があるこしましても、之は其人の社會的實力によりまして、さう云ふ事が自ら出來て來た丈であつて、其人の人間人格價値に於ては、何等差別のないものだゝ云ふ事にしつかり基礎を置き度い。都合に依つ

たら車に乗る。車夫に車を挽かせる。何も一丁行つたら今度は私が挽くこ云ふ事をしなくてもいゝが、又何も上に乗つたからこ云つて前の挽いてる者を卑める譯ではない。人間的意味に於てはちつゝも何方を尊しゝし、卑しいこする感じがないこ云ふ事になればいゝではないかゝ思ふ。角力取があの土俵に上りまして、「力は均等なるべし」と引分けしたならば、面白くも何こもない。何うしても強い人は弱い人を投げませう。投げても構はないこ思ふ。都合ですから、それで人間價値の全部の差別がついて了ふゝ云つた様な事さへしなければいゝ。幼兒期に於て、そんな處には觸れないで、たゞ誰でも同じこ云ふ氣持で養つて頂き度い。機械的にたゞ物を尊ぶ様な事を幼兒にさせない方がいゝこ思ふ。

それで今の沼波さんのお話の様に、此方の組の者が此方の組の者を、人間的意味に於て輕侮し、侮辱するこ云つた様な事は出来るだけ、しない様に指導し度いこ思ふ。實力で階級が出来るのが當然であつて、之を出來ない様に自然にするこ、其中に反つて不平不滿が出来るかも知れないと

學校なんかでも、家庭の低い家の子供云ふものを、知らず識らすの中に、先生が、其所謂人間人格に於て輕侮して居る様な感じが全然ないでもない云ふ事を、私は非常に心配して居る。せめて學校云ふ處、幼稚園云ふ處では、階級云ふものを人間價值として對等に取扱つて行く感じを一ぱんに張らし度い云ふと思つて居る。先生を生徒が尊敬する云ふのは何も階級問題ではない。所謂階級云ふ事に依つて、人間價值を定めて了ふ云ふ様な誤を出来る丈避け度い云ふと思ふ。

其次是二百二十四番。

(二二百二十四番、吉田孝禪氏) 之は方々の幼稚園に行つて話をした時に、その後になつて子供達が浦島や桃太郎の話に就て「本當にそれはあつたのかい云ふ色々其内容に就て細く質問する。其時に何う云ふ風に答へたらい云ふか。水の中に這入つたら溺れるのではないか。乙姫様が何う云ふ恰好をして居るか云ふ様な質問をする。其れに對して何う云ふ様に答へるか。

(應答者) 之もよくある事云ふ思います。まあ、明確に言つ

て見ますれば、大人の所謂つくり云ふが、六歳七歳の子供に於きまして信じられない。そこで「本當か」云ふ様な意味、更に其れを細かに、浦島が龜に乗つて海に這入つて行くが、自分の瀧れた経験な云ふから思つて「大丈夫かい」「龍宮がある云ふけれども本當にあるのかい」云ふ。之は最近にも問題になりまして、何新聞でしたか「修身の方では嘘を言つちやいかぬ云ふ書いてあるが、國語の方ではお伽噺に嘘が書いてある。何方がいゝんだい」云ふ子供が云つた云ふので、色々な議論が數日に亘つて載せてありました。

まあ私は斯う思ふ。一般論に這入りませぬで、極く問題を極限して申しますれば、浦島の話で、浦島太郎が龜に乗つて海に這入つて大丈夫なのかい云ふ聞きましたら、之は、大丈夫である云ふ言つたつて構ひませぬ。イルージョンが覺めたらアブ云ふやつて居るので、たゞその眞實のイルージョンがかゝつて居つた時だけ通つて居たのだから、「そんな事を言ふものじやない。實際大丈夫だ」なんて云ふ事を言つたつて駄目云ふ思ふ。「龍宮つて何處にあるの?」——それは及川先生の水族館手技云ふものをおやりになつて、

早速龍宮が来ると思ひますが……。そこで「そんならばあれは嘘だよ。お前がさう疑ふ迄もなく、さうから嘘だ」三つて居たが、何時迄嘘がはけないかと待つて居たんだ」等々云ふ必要はない。

我なら斯うまで聞かれたらば、——するく聞へるか知りませぬがするいのではない——「さうだつた」とさ」云ひ切ります。「それはさうだつた」とさ」云ひます。私は、自分自身が小さい時からあの話を聞いて、今でも浦島が水の中に這入つた様に思ひます。「之は嘘だよ。だが話だからするんだよ」云つた様な氣持ではお話は出來ない。お話は自分自身イルージョンによらなければ出來ない。さうして、浦島太郎が龜に乗つて這入つたから云つて、誰でも這入れる云ふ譯ではない。そんな事は普遍的原則に於てあり得ない。子供が云ひましても私は、藝術の立場に立つ根據を持ちまして、「這入つたんだ」とさ」之で通して了ひます。

藝術的強味で浦島太郎のあの事件を是認したから云つて、物理學の凡ての法則が信じられなくなる云ふならば之は何處かに無理がある。キリスト教の聖書、或は佛教の

お經をお読みになる奇蹟が出て來る。奇蹟を信じたから云つて「弘法大師がやつて出來たが俺がやつても出來ない」云は云へない。「あれはあゝなんださうです」云へばよい。信仰があれば信じられるし信仰がなければ信じられない。「龍宮つて何處にあるか行つた事ないが海の向ふにあるんだ」とさ」の「サ」の強い事！之で宜しくは御座いますまい。

三百十八番沼波さんの問題。第一は、保育項目の中の遊戯ですが、或種類の遊戯は男の子が嫌ふ。いや／＼乍らして居る。さうしたら、何うしたら宜らうか。

(應答者) 之は「幼兒教育」六月號に於ける座談會等が關係して居ります。

何うしたら宜らうか云ふ事に此問題の意味があるので、その男の子の好む遊戯をふんだんに提供すれば解決出来るが、其子の場合として、何う取扱つたら宜らうか云ふ事が問題云ふ。何うで御座いませう。之は私が斷定し難いから皆様の衆議によりませう。

如何にも先生自身も、之は男の子に相應しくない考へ

る遊戯があつて、それを構はず與へた。所が男の子は嫌がつてしない。其時にも之が保育上是非やらせなければならぬものだ。お考へになります方手を擧げて下さい。

(手を擧げる者無し)

(三百十八番、沼波馥氏) さう云ふ意味ではありませぬ。大部分がして居る中で一人しない云ふ場合もある。其子供を、それではお止しなさい云ふ場合もある。其子方は何う思ふか。自分は何時でも嫌云へばしないでもいいものと思ひやしないか。他の子供は、「しないでもいいのか、あの子一人だけ何故許されるか」云ふ事を考へる。

(應答者) 皆が面白がつてやつて居る遊戯、所が或子供が所謂我儘と申しませうか、それを嫌がつたしましたならば之を何うするか。

之に色々の理由がありはしまいか。その嫌がる理由によりまして多少緩急のこころもある云ふが、今のお尋ねの要件は分つて居る。その、好きだ嫌だ云ふ事にまかせ過ぎる事に依て、其時は相當に理由があつたとしても、其子自身も、嫌なら何時も止す云ふ事になるし、其れが他の子にも移つて行つて訓練上悪くはあるまい云ふお話。

之は何うも、其場合にも依りますが、訓練上の心配から言ひまして、其子が我儘で、あまり勝手である場合に於ては、此方の言ふ事をさせる爲ではなく、皆がして居るからお前もしなければならぬ、云ふ形の上からでもなく、其子の爲に我儘を通させない様に氣を付ける事が必要と思ふ。其爲には、ここによつたならば、其時は何うしても嫌だと言ひましたならば止させた方が、其子に、此次は本當に這入る機會を與へる場合もありませう。一體訓練の問題は、アフターケヤー、後の事情が大事である。或はアフターケヤーが強くなつて、四五日経つてから思ひ出して、子供の方では忘れて居る時に騒ぎ出す云ふ事を申して居るのでないが、若し此子がそこで嫌だ々々と言ひましたならば、うんざやさしく出て、さうして嫌な氣持をすつかり汲んで「それでは此方でお休みなさい」と云つて、さうしてフランクに皆に「此人は何うしても今日出來ない云ふから我慢して上げませう」と言つて、さつさと此方で運んでしまつて、さて後で其子に對して醇々と説く。こればかりがアフターケヤーではありませぬけれども、アフターケヤーを持つて行ける場合もある。

それから、動植物を觀察する場合の破壊性、亂暴性、或は迷惑をかけて困つた場合如何に處理すべきか。

迷惑をかけた云ふのは破壊性亂暴性の爲に他の子供に迷惑をかける……。

(三百十八番、沼波馥氏) 共同生活をして居る時に積木をする。或は遊戲をして居る時にひつくりかへる云ふ様な事がよくあります。そんな場合、却々一年位直らない子供がある。

(應答者) まあ、並はづれた破壊性の子供もありませうが、あまり激しかつたら幼稚園をやめて貰ひます。實際私もやめて貰はうがと思つて相談した事もありました。斯うした時は斯う云ふ理由でおこしわりします。「お宅のお子さんは少し變つていらつしやる。其爲に、そのお子様へも善き友達を提供する責任を持つて居る幼稚園として困ります。」そのお子さんへも善き友達を提供する云ふ事を本務とする幼稚園に於て如何にも當惑致す」而もそれは言ひ譯の口開きであります。本當の本音は、吾々の方も、もう一つ偉い保姆が揃つて、御子様にかゝり切つて居れるのなら

いゝのですが、何うも唯今のところ、事實、幼稚園云ふものは何う云ふものが知りませぬが、お子さんの方へからきりになつて行くのでは困ります、と言つて退學を命ずるのではない。斯う云ふ様にして父兄に話す恐れ入つて了ふ。あまり激しい例外の場合は仕方ないと思ひます。けれどもさう云ふ事は百人に一人か千人に一人か、あまり滅多に起る事ではないと思ひます。

色々程度がありますが、假にも、兎暴性に對するに兎暴手段を以て當る云ふ事は、うまく行かぬと思ふ。まあ、こういふ子供には一つ子供同志ともよく話合ひまして、特別な子供になつて來ましたならば他の子供達も、あの人はあれば者だ云ふ事を知つて居りませうから、そこで、誰さんはあゝ云ふ人だから、亂暴で困るけれどもやさしくしようじやないか、と相談しまして、先生は勿論出来るだけやすく其子を取扱つて行く。それより他仕方ないと思ふ。子供達にその相談をして行く云ふ事は、つまり其子の訓練ではなく、其子に依て壞される共同一致に就て、他の子供に充分諒解させて行く云ふ事で多少緩和はしないかと

思ふ。

まだ少し残つて居りますが大體之で御諒解を得て置きませう。

最後に一言申上げますが四十四番。今日御缺席の様であります。私の今回の講演をお聞き下さいまして、其れに就て問題が出て居ります。之はつまり此處の講義を基として、此處に起つた問題になりますので、大變興味の深い事で思ひますが、今日御出席になつて居りませぬからお話をひ出来ませぬ。

(四十四番、坂内ミツ氏) 先生後に来て居ります。一寸遅れましたので……。

(應答者) 之に色々お書きになつて居りますが、誘導保育案を實行して行く場合に於て、保育者が感じて居る程の興味を幼児が持つてくれるに限らない。さう云ふ時に何うしたらいいものか。或は幼児の中の幾人か——半數しか感じてくれない云ふ時には何うしたら宜らうか。興味を感じてくれた子供も、それが全體の友達の生活を引張つて行く程に強く働いてくればまだいいが、それが出來ない場

合には、やつぱり保育者の方から、計畫へ子供を嵌めて行く事になるではないか、と云ふお話であります。

之は確に實際問題として、此方の與へた誘導保育案が、一々子供の興味を促してうまく行く事は定つて居ないこ思ひます。之は眞に御尤もな問題であります。時間が参りましたから之にお答へする事は他の機會に譲りまして、丁度之が出て居るので、最後の言葉を、結びとして申上げて置き度いこ思ひます。

昨日も、茶話會の時に色々お話が出た中に、私の今回の

お話の「幼稚園保育真諦」その真諦が、鐘をボーンと鳴らす様な微妙な大層意味深長なものであつたりして、私が鞍馬山からひねつても出した様に尊いものにおこり下さいました事は非常に有難いのであります。此事に就て私は二つ、はつきりお断りし度い。

幼稚園保育真諦と云ふ言葉は、實はもつと丁寧に書きますれば、幼稚園保育方法の真諦でありまして、保育と云ふ事を、保育と云ふ或は幼稚園と云ふ事の全體に亘りましての事を申したのではありません。所謂方法と云ふものの範圍内に於て、私は、あく云ふのが幼稚園として本當なの

ではなからうかご考へましたのであります。

それから二つ、三申上げますもう一つは、眞諦であります。眞諦ご云ふのは、實は私「諦」の字が何う云ふ意味かよく知らないが、若し段々エッセンシャルなこころに問題を考へて持つて行きますと、大層純粹な眞隨に觸れますか、乍併、其通りの事ご云ふものは却々出來ませぬ。丁度色々：此頃何だか、コーヒーエッセンスとかストロベリーエッセンスとか、色々難しい飲物がありますが、あのエッセンス、あれはそのままにても存在しない。大抵それは水が這入つて居ります。其所で、幼稚園に於て今迄申し上げた様な事が方法のエッセンスだ私は考へて居りますが、然しあれだけで一切の幼稚園が出来るご考へて居る譯ではありませんので、其所には色々のものが混ざつて出来るご思ふ。色々なものが混ざるご云ふ事は、反対の方から言ひますならば、例へばエッセンシャルな眞諦に屬する要領が、充分に其中に這入り込んで居ない幼稚園の部分も、保育の部分もある事を認めなければならぬと思ふのであります。ですから、例へば保育案を、私は誘導保育案を本體とするご考へ

ます。所謂はめこみ幼稚園、モザイク幼稚園は私は強く反

對致しましたが、然しこの生きた幼稚園の中に與へられた誘導保育案ご云ふものが、凡ゆる幼兒の生活を100%バーセントの意味に於て處置して行くか。之は、私はそこ迄の事を要求して居りませぬ。方法なしややれないし、方法を出せば束縛して了ふ爲、幼稚園の眞諦には反するし、そこで與へて居るものを百取る事もあれば七十取る事もあり、六十取る事もあり、或はその誘導保育案を其通りに一日中して行く事もあり、何もしれないけれども何うなく影響を受けて居る事もあり、或は今日は受けぬが數日の中に何うなく受けけるご云ふ子供もありませう。

つまり誘導保育案そのものが、その程度に於きまして極めて廣やかなものを持つて居るのであります。誘導保育が與へられたから其通りにして行く。幼兒がついて来るか來ないかは別問題であります。

其點は一つ、すうつご眞諦なのでありますて、偉さうな事を言ひましたが、緩やかなものにお汲み取り願ひ度い。之で私のお話を終ります。（終り）（文責在編輯部）